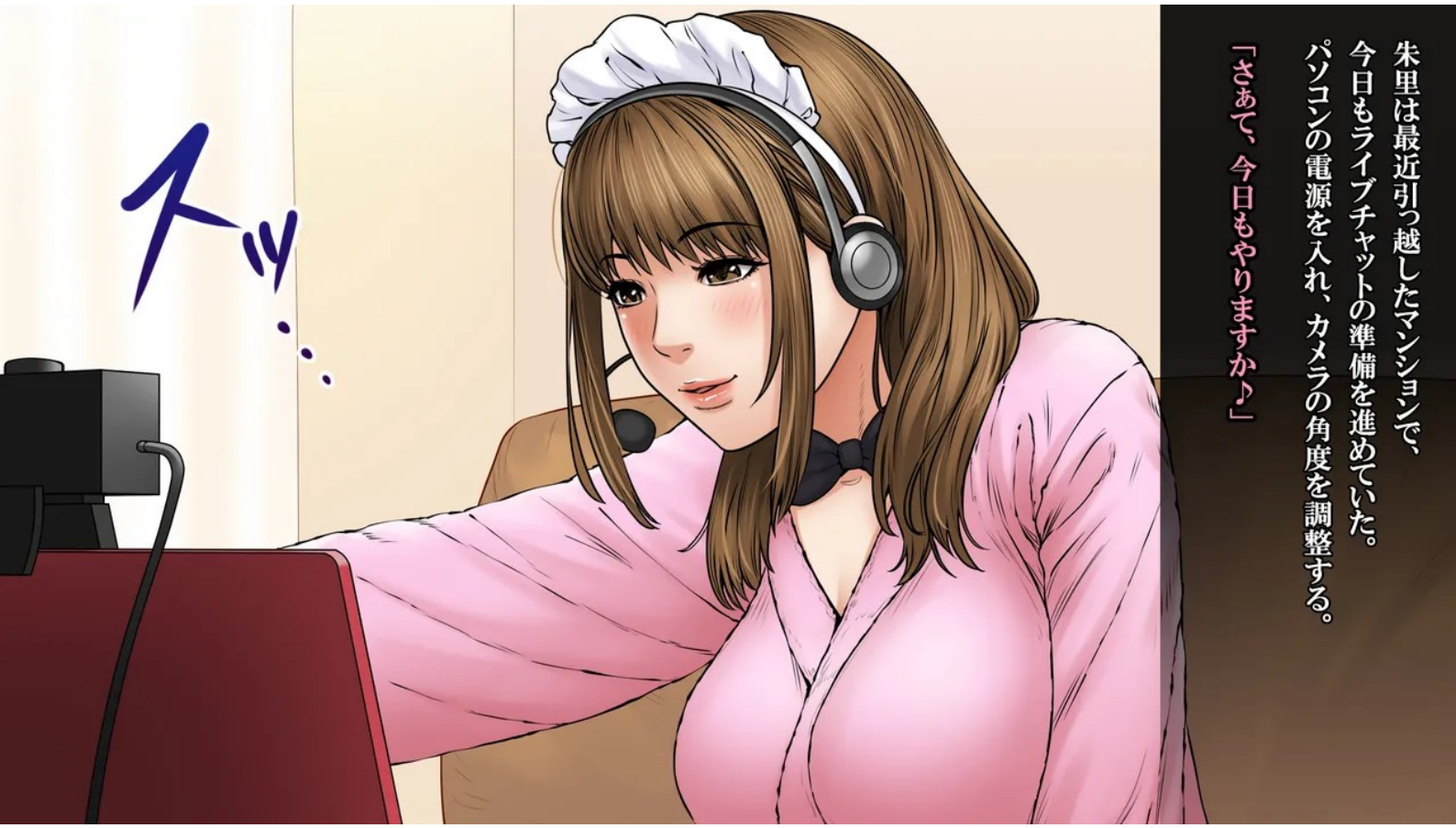
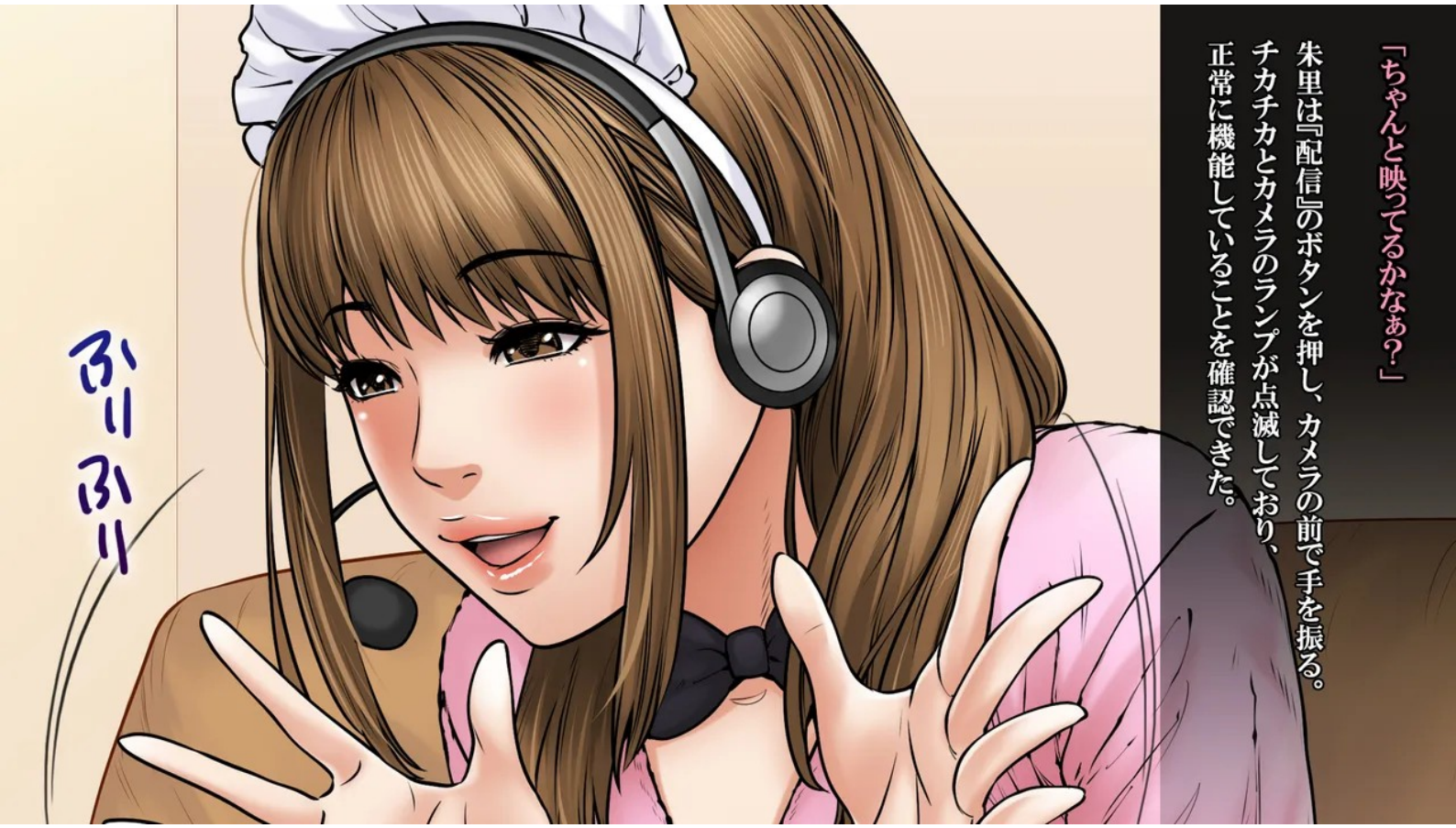
すぱにらる
あぁっ♡
ズンズンっ
世間知らずの娘
ライブチャット編

『栗谷朱里（くりたに あかり）』
高校を卒業後はライブチャットを生業とし、
画面向こうの男たちで荒稼ぎをしている。

他に働く術を持たず、
男のことは金稼ぎの道具としか思っていない。
男遊びをしているかのようだが、実は男性経験を
知らない世間知らずな女――……


朱里は最近引っ越したマンションで、
今日もライブチャットの準備を進めていた。
パソコンの電源を入れ、カメラの角度を調整する。
「さぁて、今日もやりますか♪」
スッ…



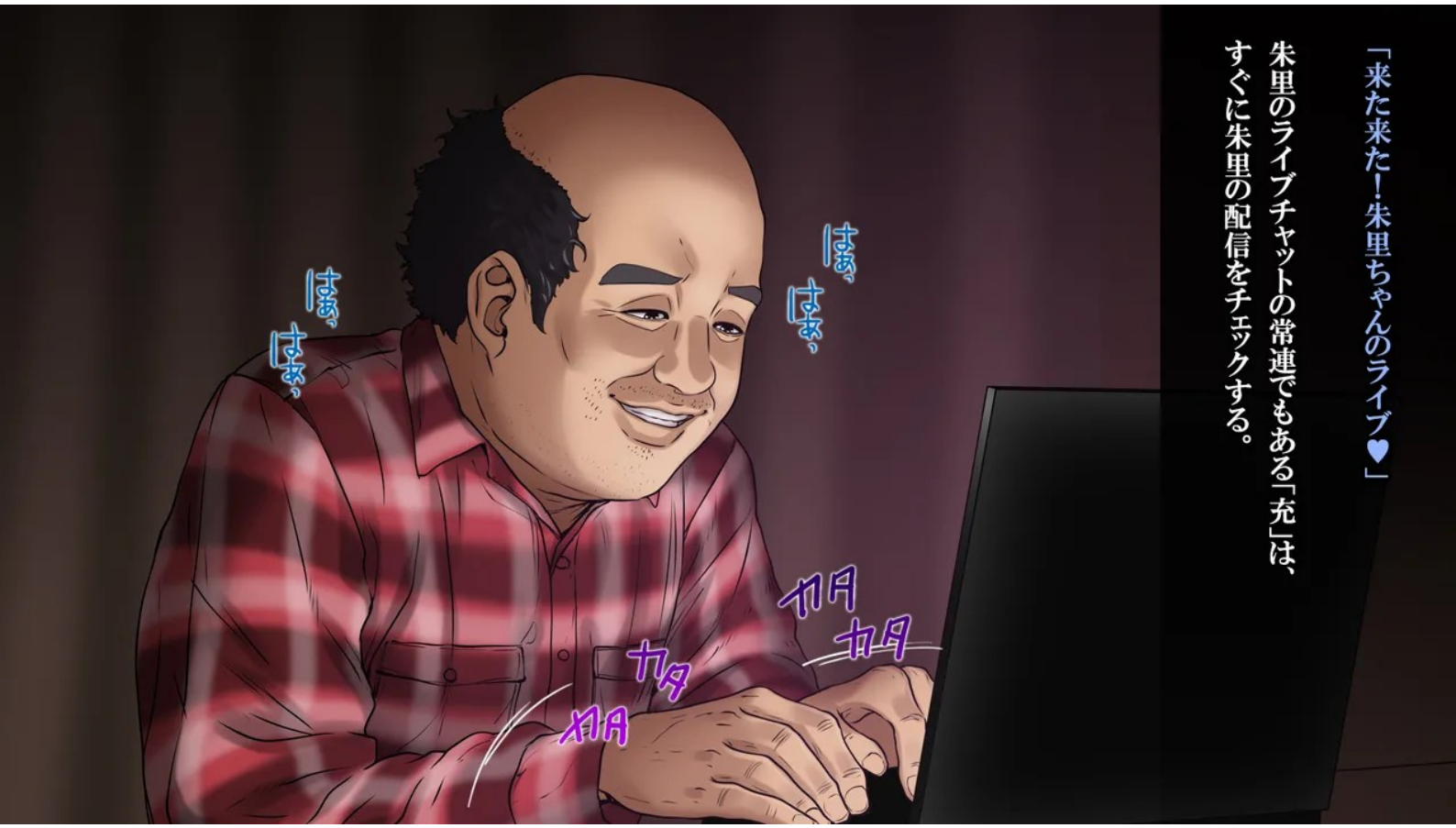
「ちゃんと映ってるかなぁ？」

朱里は『配信』のボタンを押し、カメラの前で手を振る。

チカチカとカメラのランプが点滅しており、

正常に機能していることを確認できた。

「まだ人も少ないし、集まるまでちょっと雑談タイム♪」
ルーム内の人数をチェックしつつ、人があつまるまで
適当な雑談で時間を潰し始めた。
一人、また一人とルームに人が集まり始める。
あはは♡
ブリリッ
ジ〜〜〜ッ



「来た来た！朱里ちゃんのライブ♥」

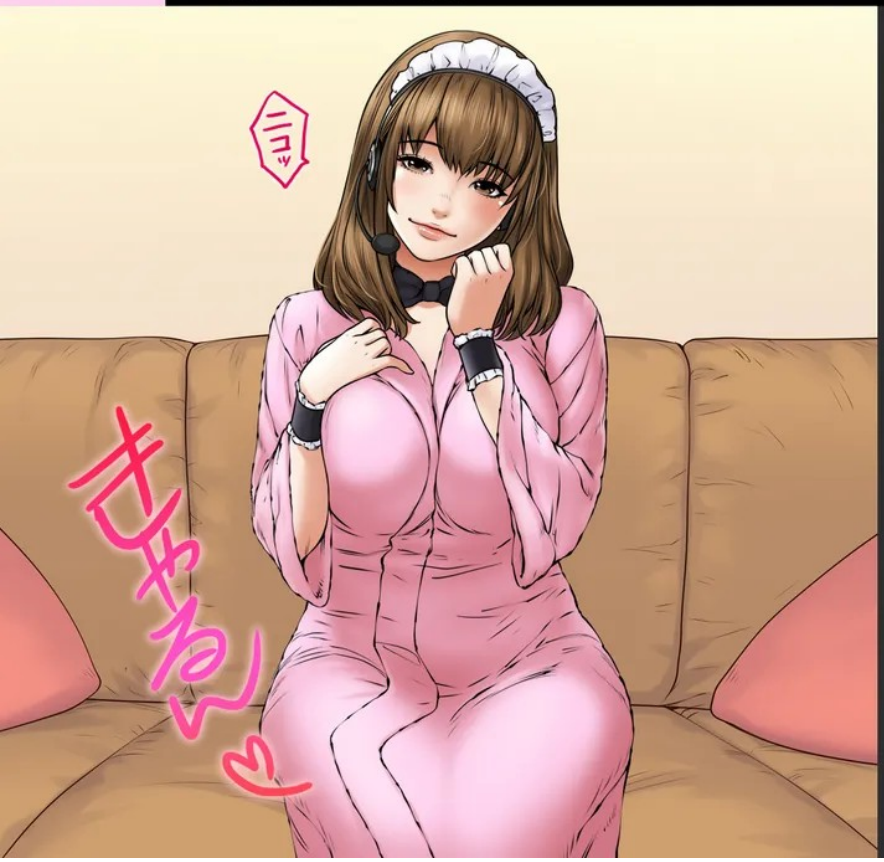
朱里のライブチャットの常連でもある「充」は、すぐに朱里の配信をチェックする。

「朱里ちゃん、相変わらず可愛いなぁ♥
おっぱいまた少し大きくなったんじゃない？ふひひっ…」
充は、画面越しの朱里の姿を舐めまわすように見つめる。
口元が無意識にニヤニヤと緩み、今から始まるライブに
心は躍り始めていた。
ふひっ
ぐふふっ
ニヤ
ニヤ
カタ カタ

「実は最近引っ越して、新居からの配信なんですよー！
部屋は広いし、外も静かですごく快適なんだけど、
部屋の壁が薄いのがちょっと心配かな。」

朱里はクスッと小さく笑った。口元に手を添えて胸をキュッと腕で包み込み、色っぽい仕草を見せる。

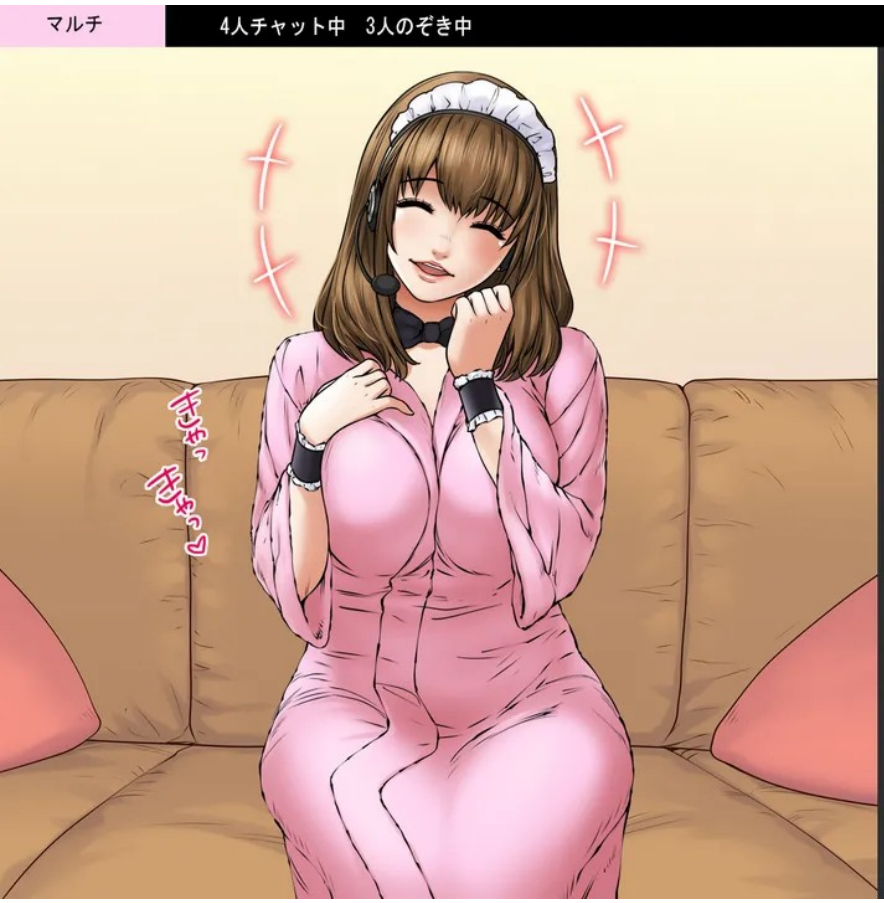
マルチ　2人チャット中　1人のぞき中



朱里：皆さんここんばんは！
朱里：朱里で〜す
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

「あ！みなさん、こんばんわ♥
今日も来てくれてありがとうございます！」

チャット欄に常連の名前を見つけ、朱里は声をかける。
ニコニコと人の好さそうな笑みを浮かべ、嬉しそうな声色でお礼を述べた。

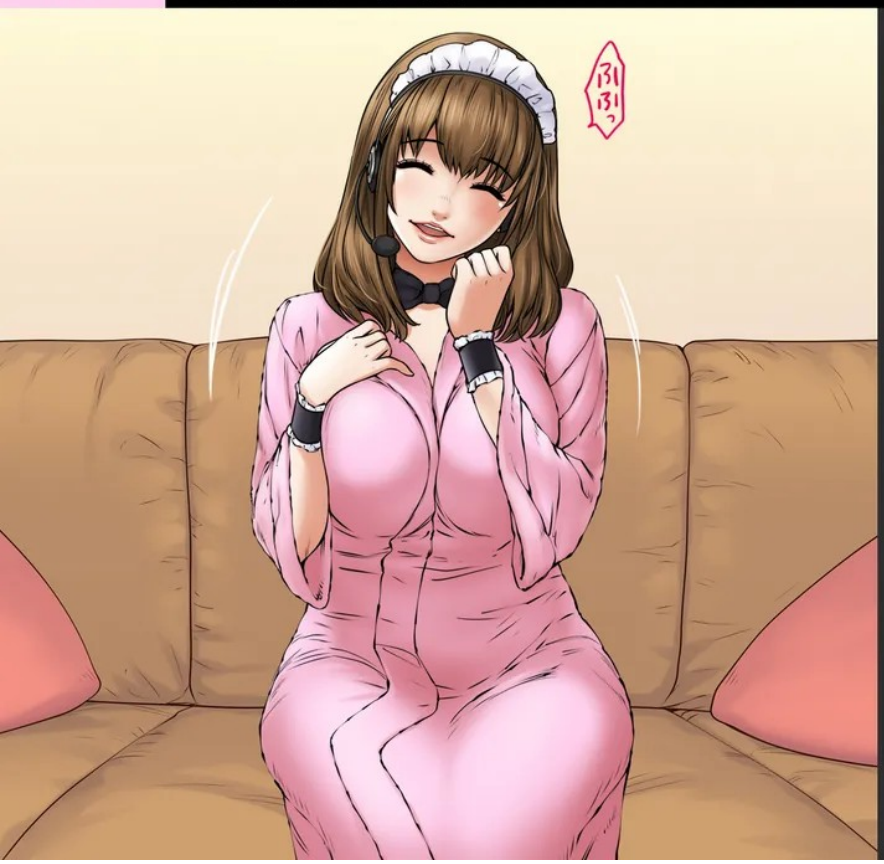


朱里：皆さんここんばんは！
朱里：朱里で～す
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる
ピエトロ　：早く脱げ
朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～
朱里：今日も頑張ります！
朱里：充さん！
いつもありがとうございます！
朱里：来てくれて嬉しい～
朱里：ピエトロさん初めまして～
朱里：えwいきなりですか～

「もう、ピエトロさんは気が早いですね～
初めて見るけど、初見さんかな？こんばんわ～♪」
新規層を取り込もうと媚を売る朱里。
ニコ ニコ
（……ふふっ、また一人カモが来たかな？
ちゃんと搾り取ってあげるから、安心しなさいよ♥）

『朱里ちゃん、今日はガウンなんだね？』
「えへへ、気づいちゃいました？
今日はこの下に、みんなが喜びそうな衣装着けてます！」
充からのチャットに、朱里は待ってましたとばかりに
すぐさま反応した。

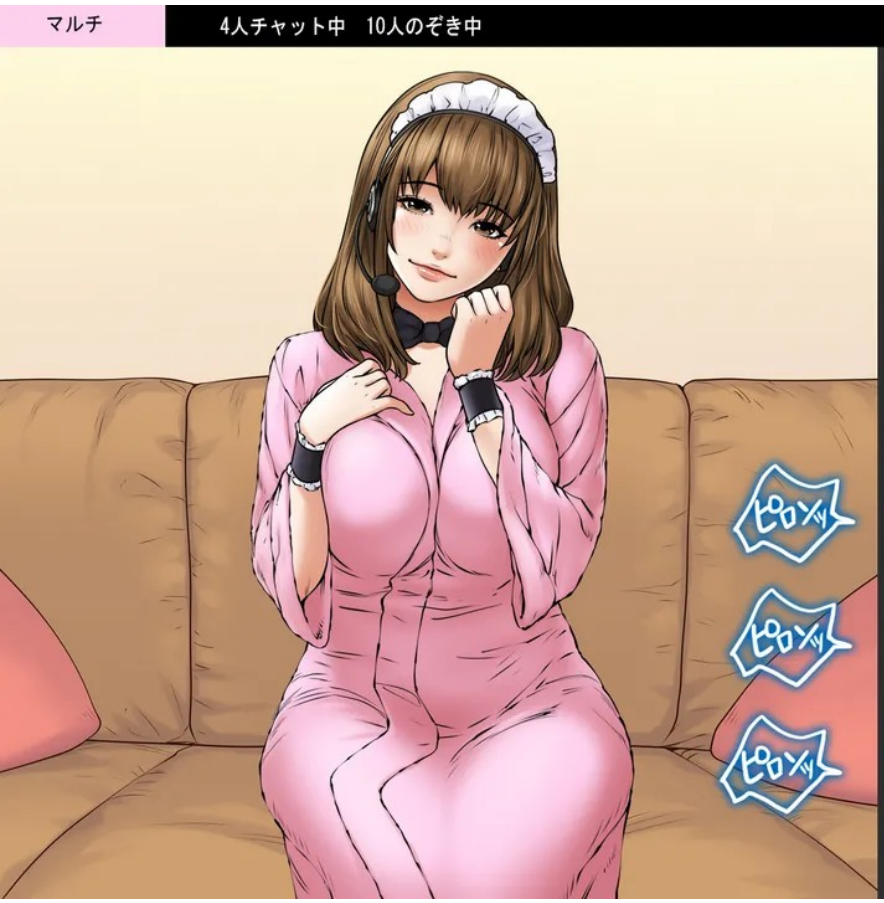
マルチ　4人チャット中　3人のぞき中



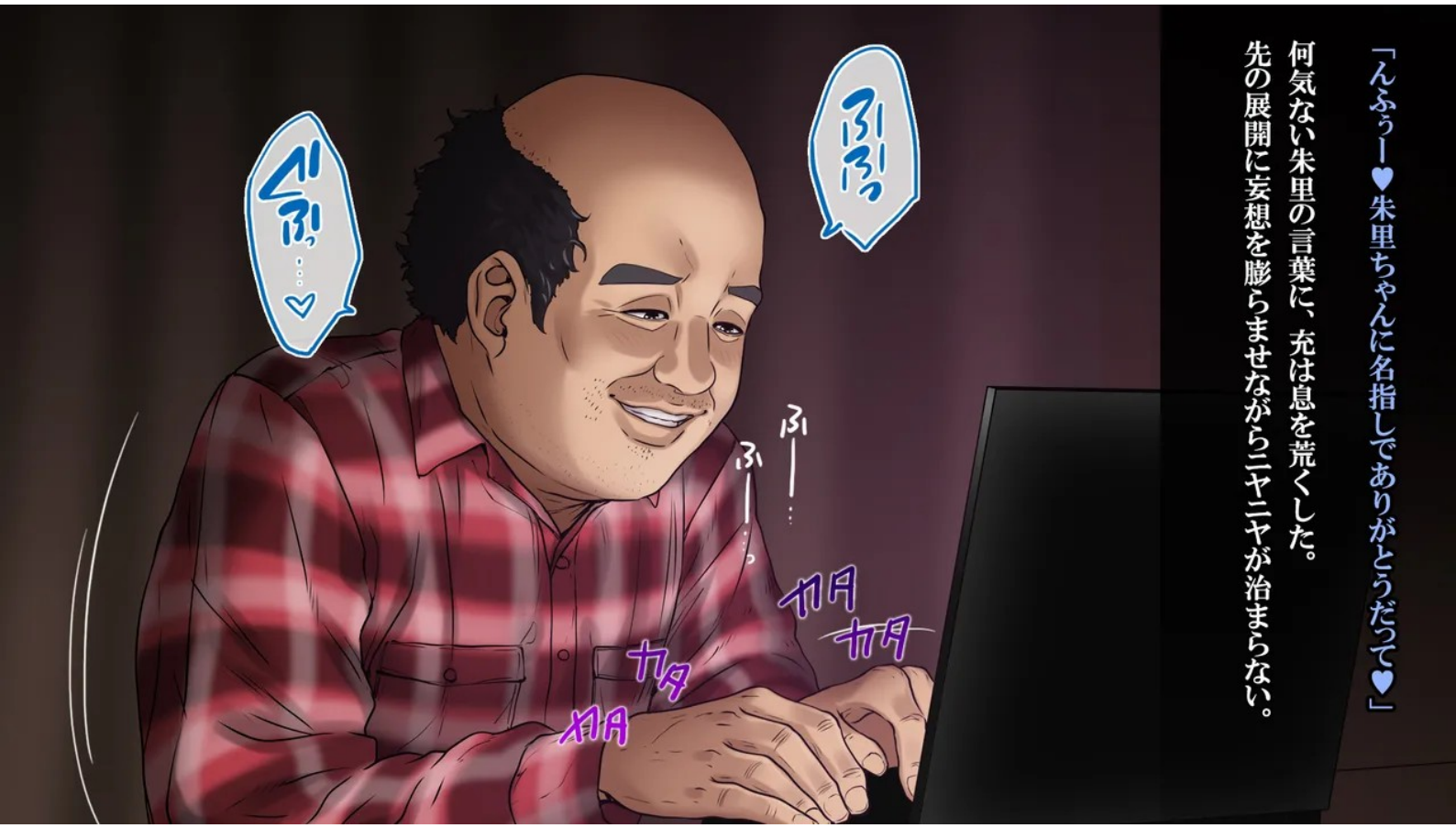
朱里：皆さんここんばんは！
朱里：朱里で～す
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる
ピエトロ　：早く脱げ
朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～
朱里：今日も頑張ります！
朱里：充さん！
　　いつもありがとうございます！
朱里：来てくれて嬉しい～
朱里：ピエトロさん初めまして～
朱里：えwいきなりですか～
充　：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？
朱里：はいそうなんです！
朱里：この下にみんなが
　　喜びそうな衣装着けてます！

チャットが進むにつれ、ルームへのアクセスが少しずつ増える。
朱里はトークを続けながら、髪をかき上げたり、
足を少し動かして肌をチラ見せするなどして焦らした。

「何着ても似合うって、そんなことないですよ～♥
ふふっ、充さんありがとうございます♪」



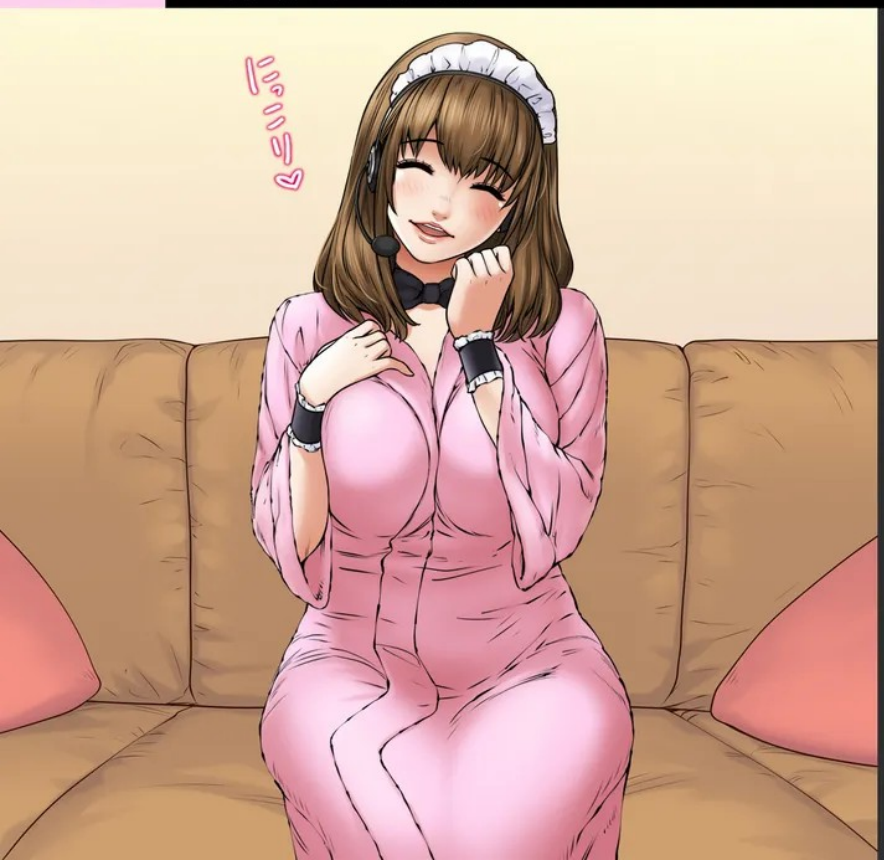
朱里：皆さんここんばんは！
朱里：朱里で～す
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる
ピエトロ　：早く脱げ
朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～
朱里：今日も頑張ります！
朱里：充さん！
いつもありがとうございます！
朱里：来てくれて嬉しい～
朱里：ピエトロさん初めまして～
朱里：えwいきなりですか～
充　：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？
朱里：はいそうなんです！
朱里：この下にみんなが
喜びそうな衣装着けてます！
鉄人45号：なにそれ気になる！
充　：朱里ちゃんは何着ても似合うから♪
ピエトロ　：早く脱げ
ピエトロ　：早く脱げ
ピエトロ　：早く脱げ


「んふぅー♥朱里ちゃんに名指しでありがとうだって♥」
何気ない朱里の言葉に、充は息を荒くした。
先の展開に妄想を膨らませながらニヤニヤが治まらない。
ふふっ
ふふっ…♡
ふー…
ふー…っ
カタ
カタ
カタ
カタ

ピロン…ピロンッ…
コメントが書かれていく。

「みんなこの下が気になってるみたいですね～
……（ふふっ、そろそろ前置きはいいかな）」

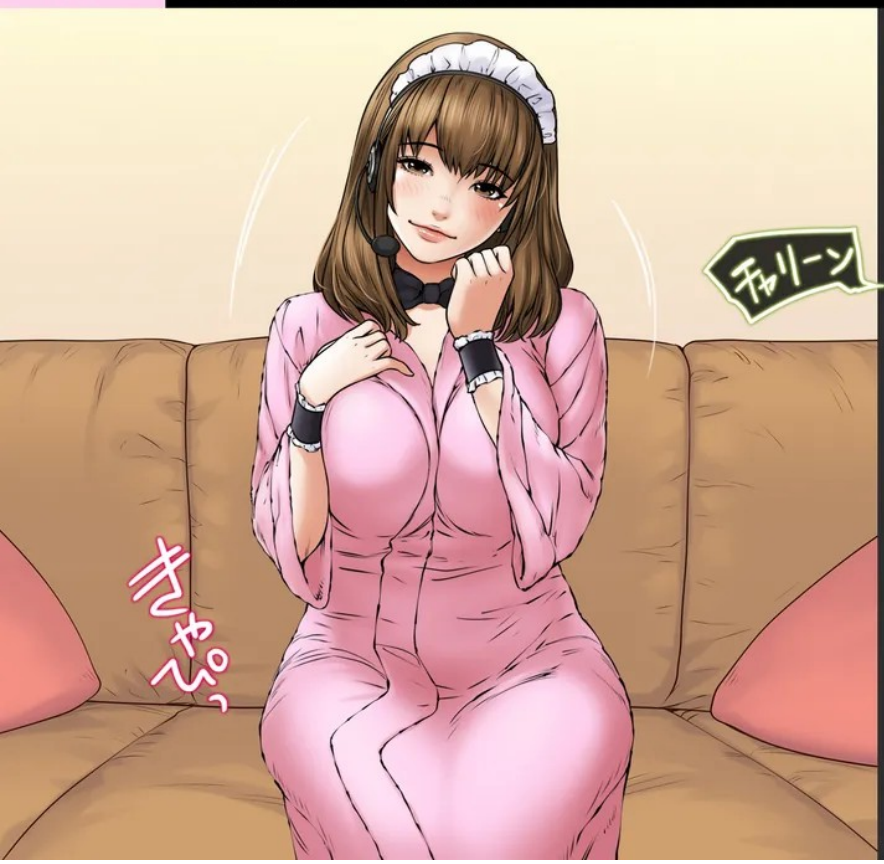
マルチ　4人チャット中　12人のぞき中

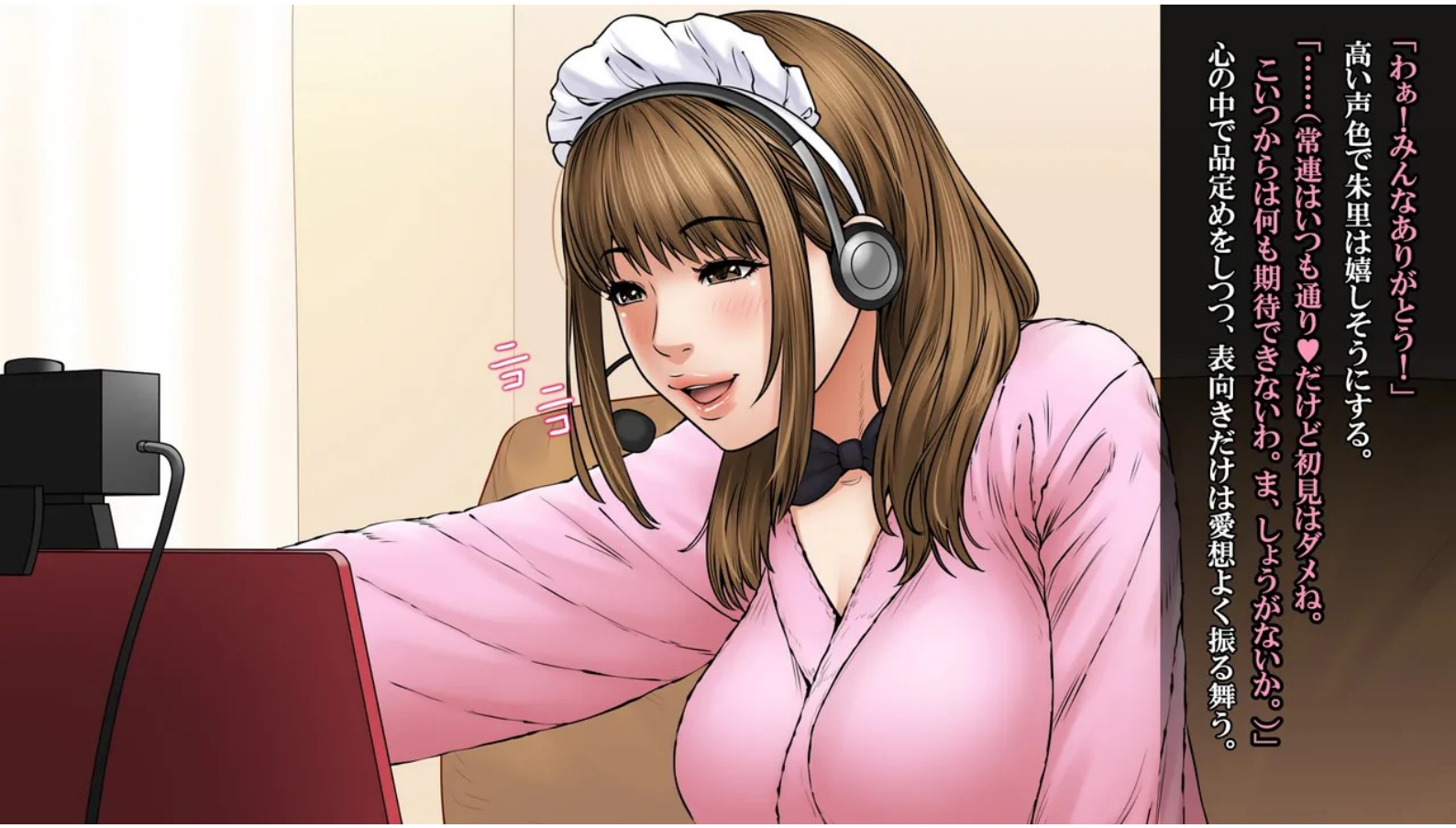


鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！

「じゃあ、一〇〇〇コインで脱いじゃいますよ～♥」

朱里がそう言った瞬間、一斉に投げ銭が投入される。
常連の二人は迷わず指定の一〇〇〇コインを与えるも、
新人だと思われるピエトロは初期に貰える二〇〇のみだった。
朱里は内心ため息を漏らした。



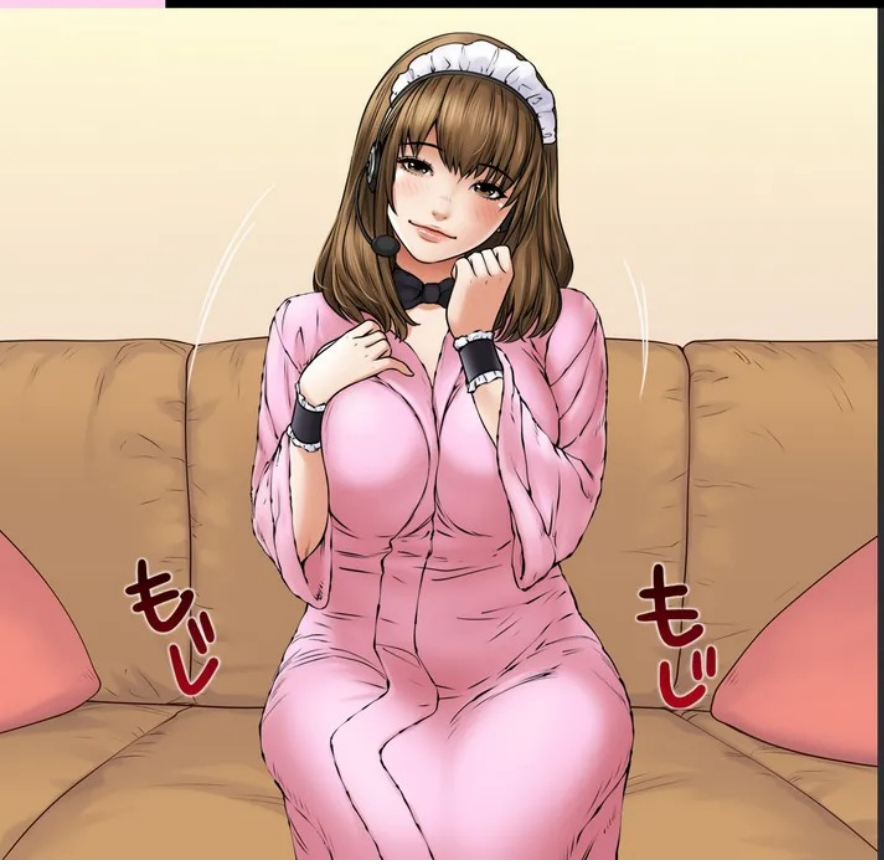

「わぁ！みんなありがとう！」
高い声色で朱里は嬉しそうにする。
「……（常連はいつも通り♥だけど初見はダメね。
こいつからは何も期待できないわ。ま、しょうがないか。）」
心の中で品定めをしつつ、表向きだけは愛想よく振る舞う。

「じゃあ、約束通り脱いじゃいますね♥♥」

画面向こうの男共が、自分に欲情していると思うと、言い表せないほどの優越感が溢れてくる。

朱里はガウンに手をかけ、ゆっくりとみせつけるように時間をかけて脱いだ。

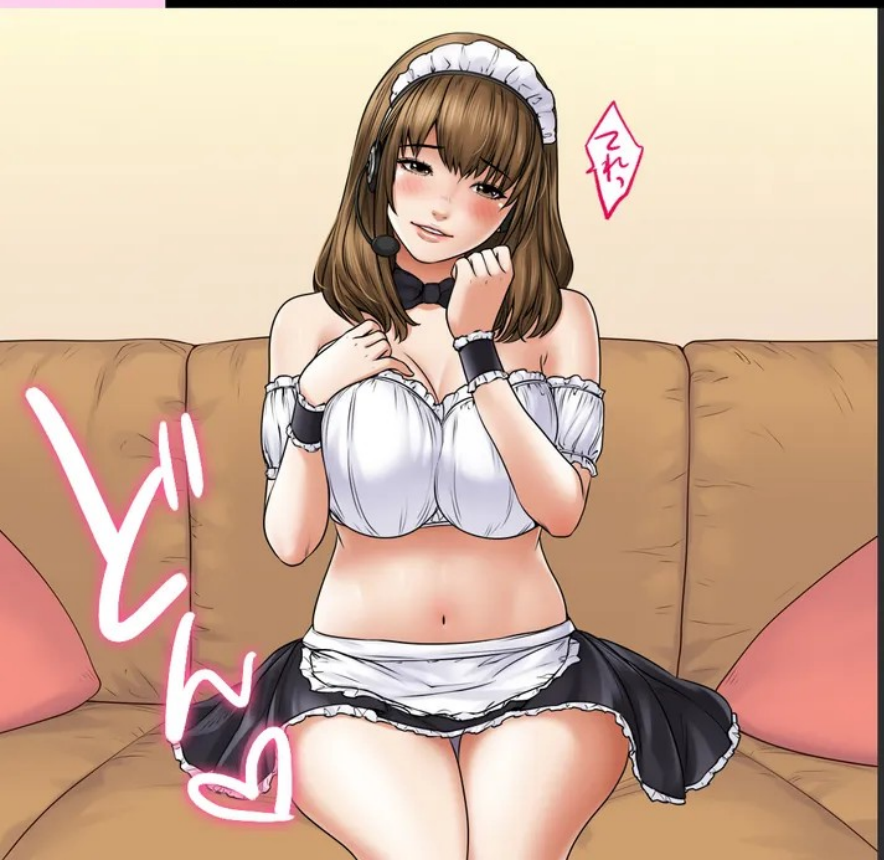
マルチ　4人チャット中　17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！
朱里：それじゃあ皆さんから
朱里：1000コインいただいたら
　　脱いじゃいますよ～
充さんが1000コイン送りました。
鉄人45号さんが1000コイン送りました。
ピエトロさんが200コイン送りました。
朱里：凄い！
　　こんなにありがとうございます～
朱里：じゃあ脱いじゃいます！

「じゃーん♥下はちょっとエッチなメイド衣装でした～♥♥」
ガウンを脱ぎ捨て、その下からは露出の多いメイド衣装が姿を現した。朱里は少し照れくさそうに頬を染めつつ胸を寄せて谷間を強調させる。
「コインいっぱい貰ったから、ちょっとサービス♥」

マルチ　4人チャット中　17人のぞき中

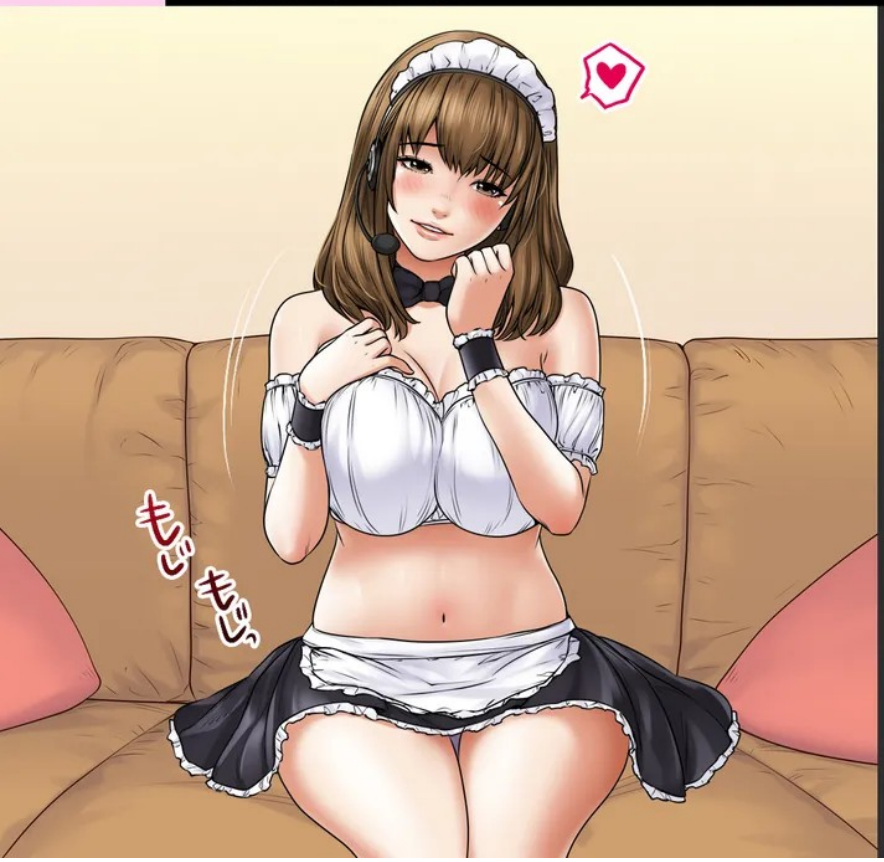


鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！
朱里：それじゃあ皆さんから
朱里：1000コインいただいたら
脱いじゃいますよ～
充さんが1000コイン送りました。
鉄人45号さんが1000コイン送りました。
ピエトロさんが200コイン送りました。
朱里：凄い！
こんなにありがとうございます～
朱里：じゃあ脱いじゃいます！
朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな
メイド衣装でした～

「朱里のおっぱい見えますかぁ？」
カメラに胸元を近づけ、アップで映し出す。
コメントが続々と流れ、朱里は胸を高鳴らせる。
「ふふっ、みんなに悦んでもらえてうれしい♪」

「下もすごい短くてちょっと恥ずかしいですぅ～」
更にカメラを下へとスライドさせ、見えるか見えないかといったギリギリのラインを責めたてる。
「……（本当、男ってチョロいわ）」

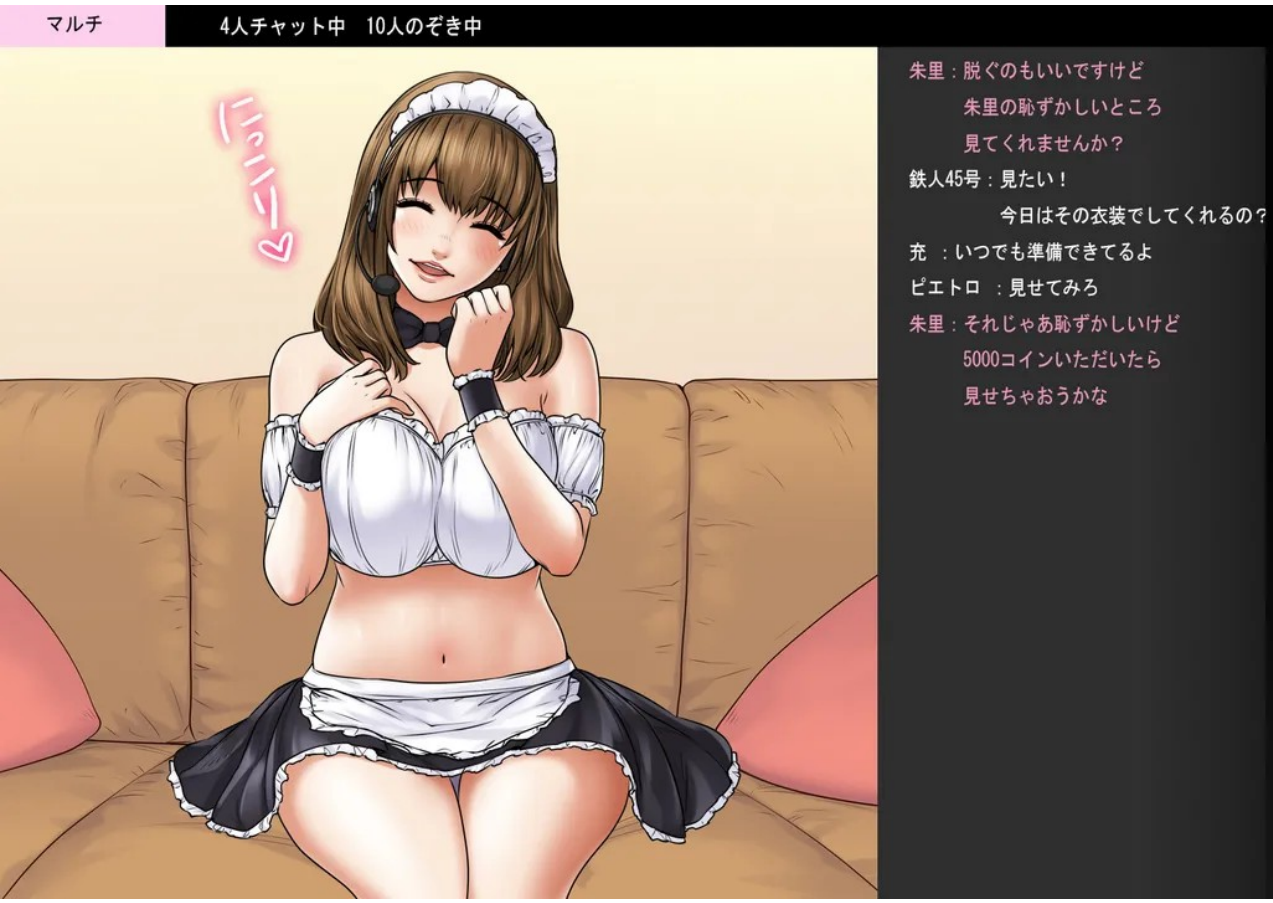
マルチ　4人チャット中　17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！
朱里：それじゃあ皆さんから
朱里：1000コインいただいたら
　　脱いじゃいますよ～
充さんが1000コイン送りました。
鉄人45号さんが1000コイン送りました。
ピエトロさんが200コイン送りました。
朱里：凄い！
　　こんなにありがとうございます～
朱里：じゃあ脱いじゃいます！
朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな
　　メイド衣装でした～
鉄人45号：似合いすぎる！
充　：とっても可愛いけど
　　動いたら下も見えちゃいそう…
ピエトロ　：それも脱げ
朱里：鉄人45号さんありがとう～
朱里：実は胸には絆創膏貼ってるんで
朱里：ポロリはないです！
朱里：ピエトロさんはせっかちですね～

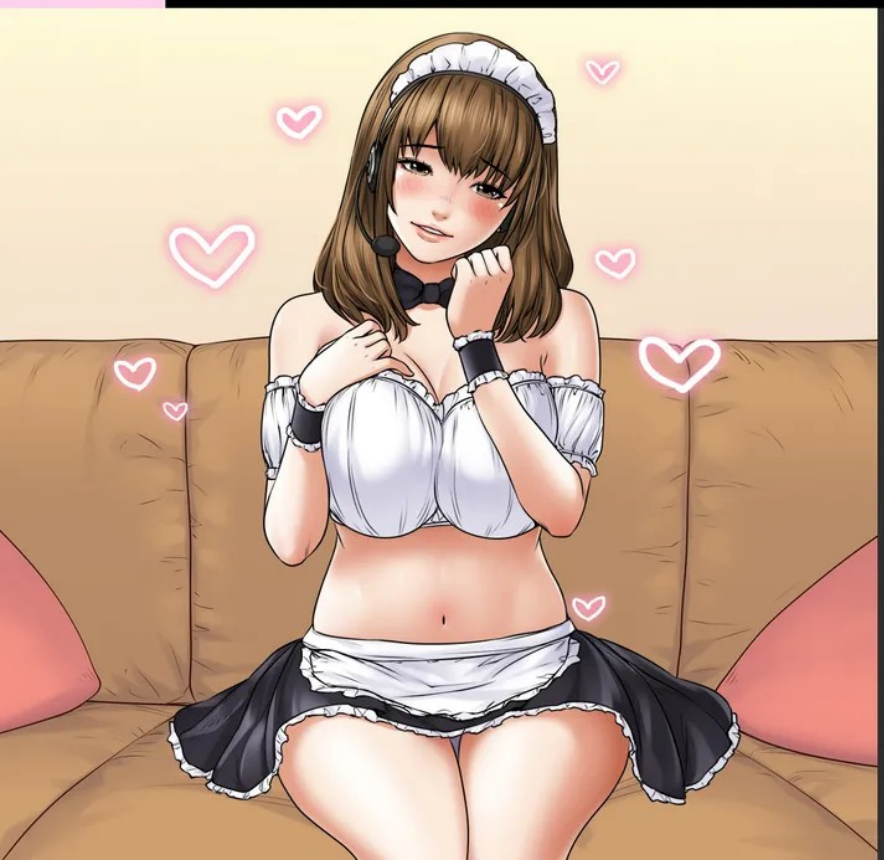
朱里は体をくねらせ、胸元や太ももをわざと見せる。
その度に反応する閲覧者に優越感を感じていた。
「みんなテンション上がってきたみたいですね♥」

「脱ぐのもいいですけど
朱里の恥ずかしいところ見てくれませんか？」
そういうと、ピコピコとコメントがすぐに流れた。
朱里はすかさず「五〇〇〇コイン」を要求する。
「コインいただいたら見せちゃおうかな♥」



ピエトロはルームを退出したが、
常連からはいつも通り指定分のコインが届く。
「わぁ、ありがとうございます！二人とも大好きです！
今からチャットできなくなるけど朱里の恥ずかしいところ
見てください♥♥」

マルチ　3人チャット中　21人のぞき中



朱里：脱ぐのもいいですけど
朱里の恥ずかしいところ
見てくれませんか？
鉄人45号：見たい！
今日はその衣装でしてくれるの？
充　：いつでも準備できてるよ
ピエトロ　：見せてみろ
朱里：それじゃあ恥ずかしいけど
5000コインいただいたら
見せちゃおうかな
充さんが5000コイン送りました。
鉄人45号さんが5000コイン送りました。
ピエトロさんがこのルームを退出しました。
朱里：充さん、鉄人45号さんありがとう～
朱里：二人とも大好きです！
朱里：ピエトロさんどうしちゃったのかな？
鉄人45号：朱里ちゃん早く見せて
充　：準備は万全だよ
朱里：それじゃあはじめるね！
朱里：今からちょっとチャットは
できなくなるけど…
朱里：朱里の恥ずかしいところ見てください

「うほっ…♥朱里ちゃんのショーだぁ♥♥」

充は息を荒くし、パソコンの録画ボタンを押した。

画面向こうの展開を期待して思わず涎が垂れ落ちる。

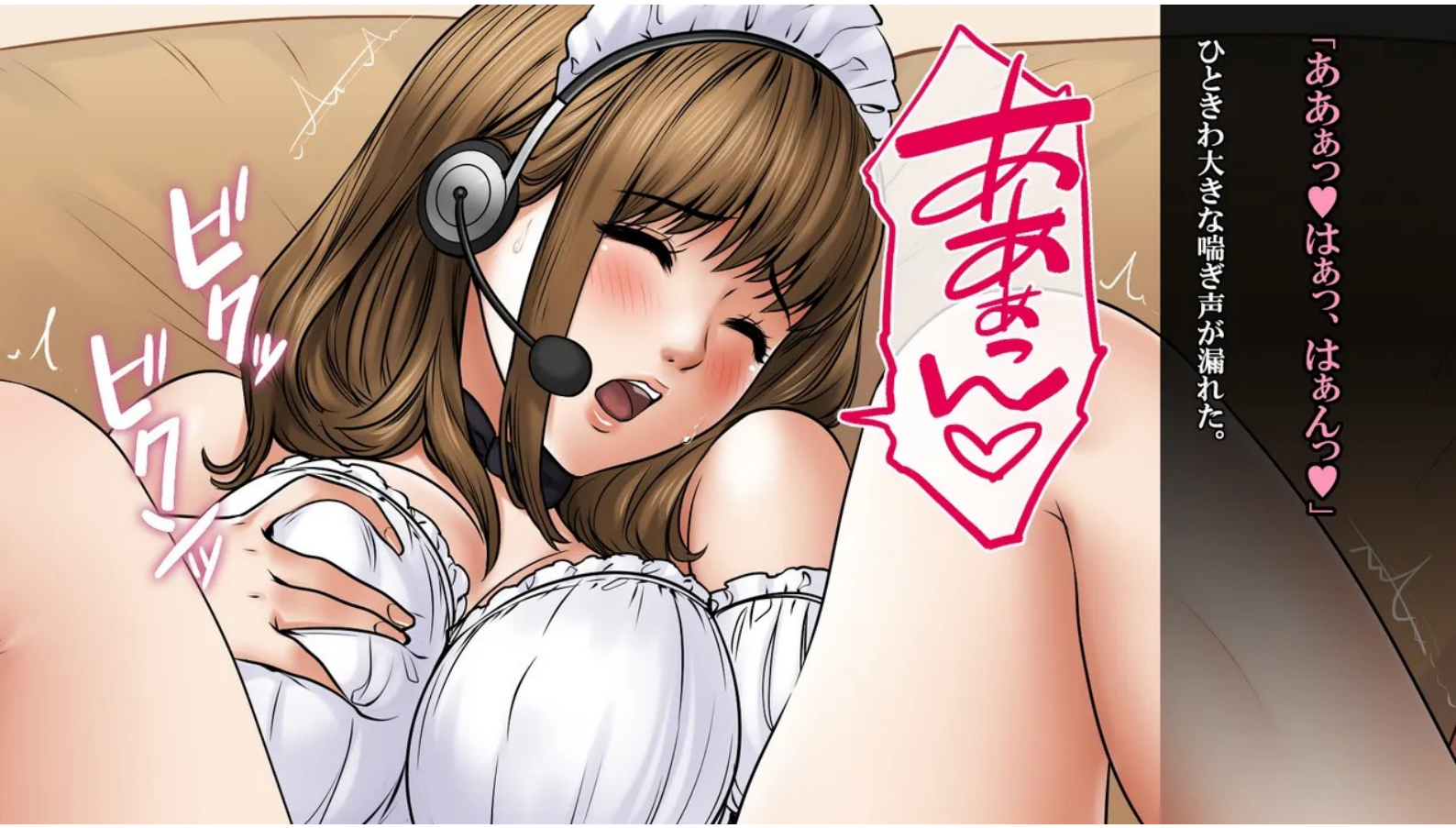
「ふふっ…今日も楽しませてもらおうかな。」

朱里はソファーに体をあずけ、カメラに向かって足を広げる。
胸を揉みながらそろそろとあそこに手を伸ばす。
「んっ……はぁっ…あんっ…」
指を上下に動かすと、微かな刺激を感じた。
パンツにじんわりとシミが広がっていく。

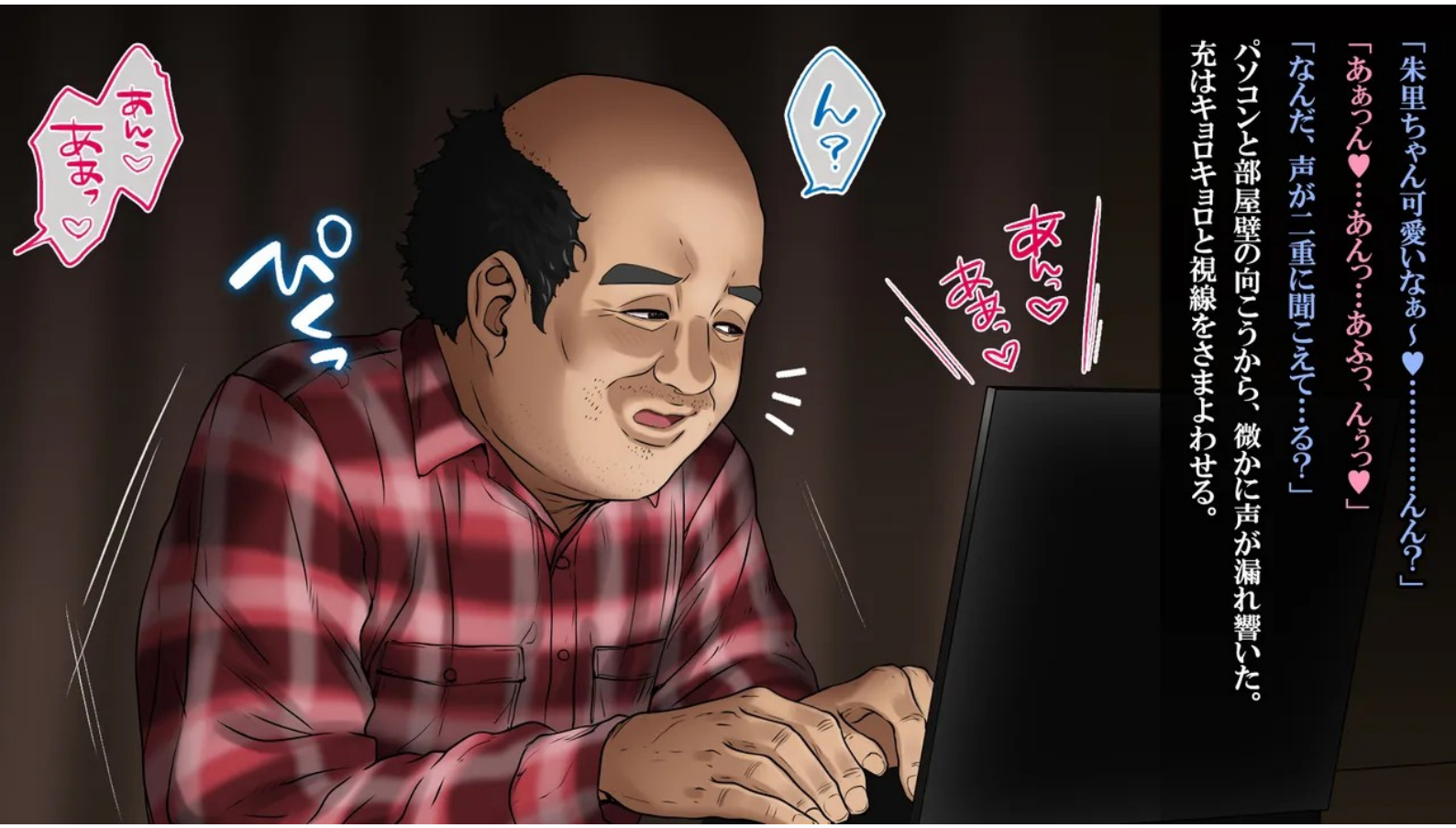
パンツの上からクリトリスをなぞり、刺激を強める。
甘い声が漏れ出し、次第に息遣いが荒くなっていく。
「ああっ…クリトリス、気持ち…いいっ…♥あんぅっ…♥♥」
服の上からでもわかるぐらい乳首は浮きたち、
あそこからはクチュクチュといやらしい音が鳴り始めた。

「あんっ♥…あふっ、ひぃ…ん♥♥
みん、な…あぁっ…見えてる？ひぃっん…あぁああっ♥」
身体がビクンッと跳ねて、時々大きな声を上げる。
乳首をカリカリとひっかいたり、クリトリスをいじると
感度が高まってカメラを忘れそうになっていた。

「はぁはぁはぁ……はぁっ…
朱里ちゃんエロいなぁ…ヤりてぇな。」
画面に顔を近づけながら食い入るように観賞する。
下半身をギンギンにしながら、朱里とのセックスを妄想し、
感情が昂っていく。

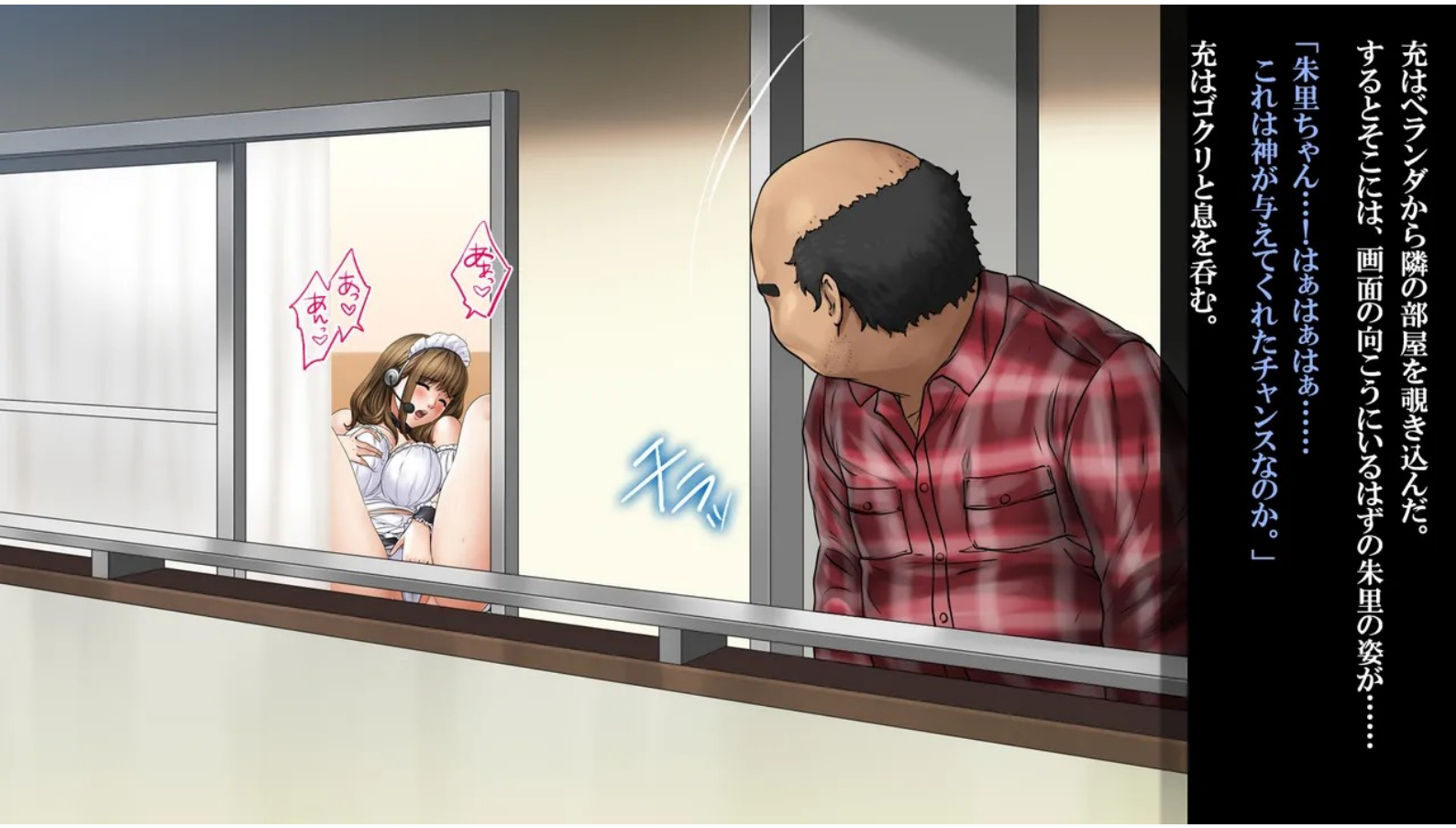

「あああっ♥はぁっ、はぁんっ♥」
ひときわ大きな喘ぎ声が漏れた。
あぁぁっん♡
ビクッ
ビクッ

「朱里ちゃん可愛いなぁ～♥……んん？」
「あぁっん♥…あんっ…あふっ、んぅっ♥」
「なんだ、声が二重に聞こえて…る？」
パソコンと部屋壁の向こうから、微かに声が漏れ響いた。
充はキョロキョロと視線をさまよわせる。



「あんっ♥いいっ…気持ちいいのおっ…♥♥」

朱里はカメラを気にせず、あそこをぐちゅぐちゅとかきまわし、色っぽい甘い声をあげた。

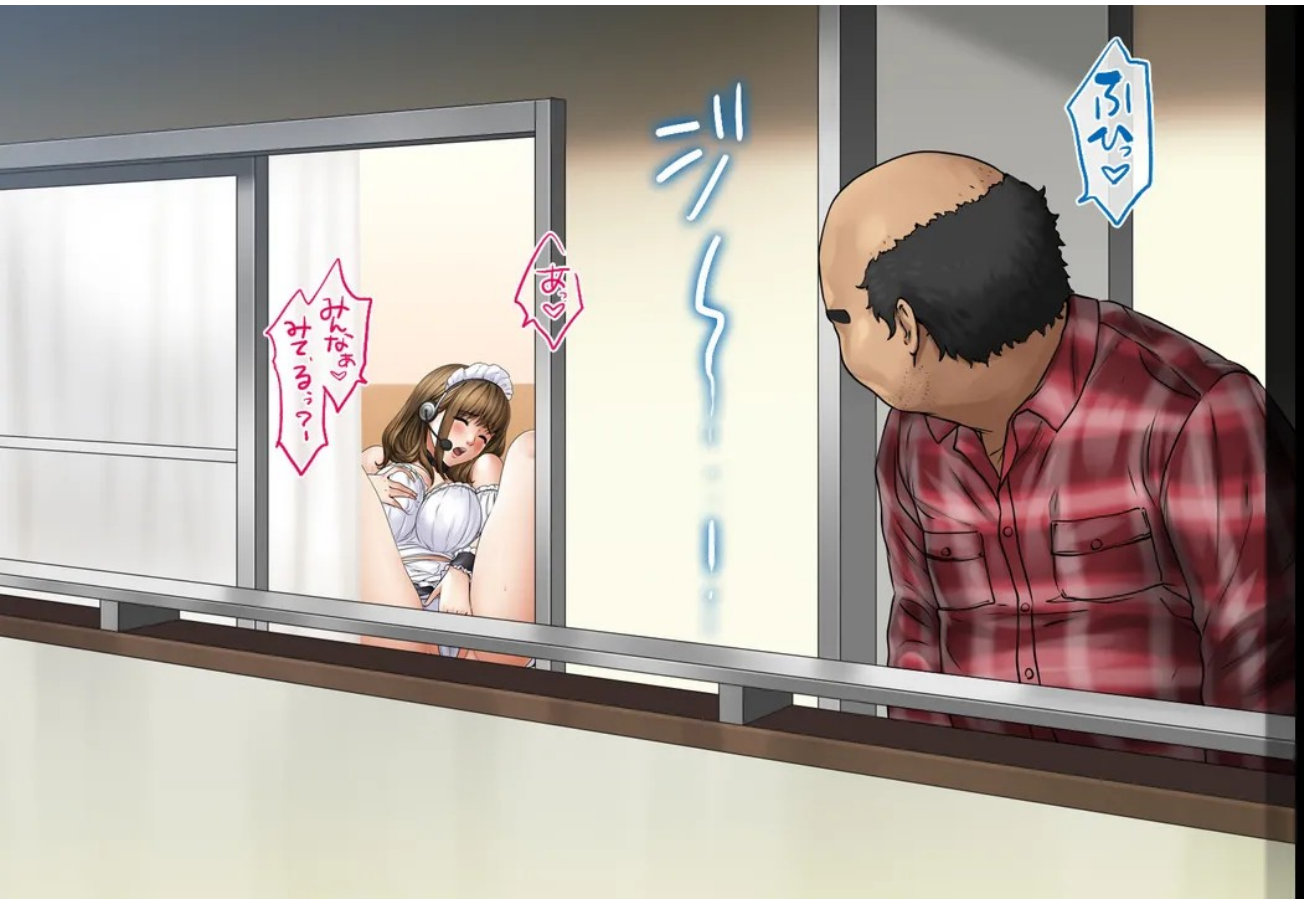


充はベランダから隣の部屋を覗き込んだ。
するとそこには、画面の向こうにいるはずの朱里の姿が……
「朱里ちゃん…！はぁはぁはぁ……
これは神が与えてくれたチャンスなのか。」
充はゴクリと息を呑む。

「鍵もかかってない。……ふひっ、ふひひひ……」

じゅるりと流れる涎を拭い、充はベランダの柵に足をかけた。

ミシッと音がなるも、オナニーに夢中になっている朱里が気づく様子はなかった。



「あぅ…♥はぁっ…はぁっ…
あっ、すご……イき、そっ…♥♥」

絶頂感が込み上がり、足先がピンと立ち上がる。
ビクンと身体が震え、息が小刻みに変化していく。

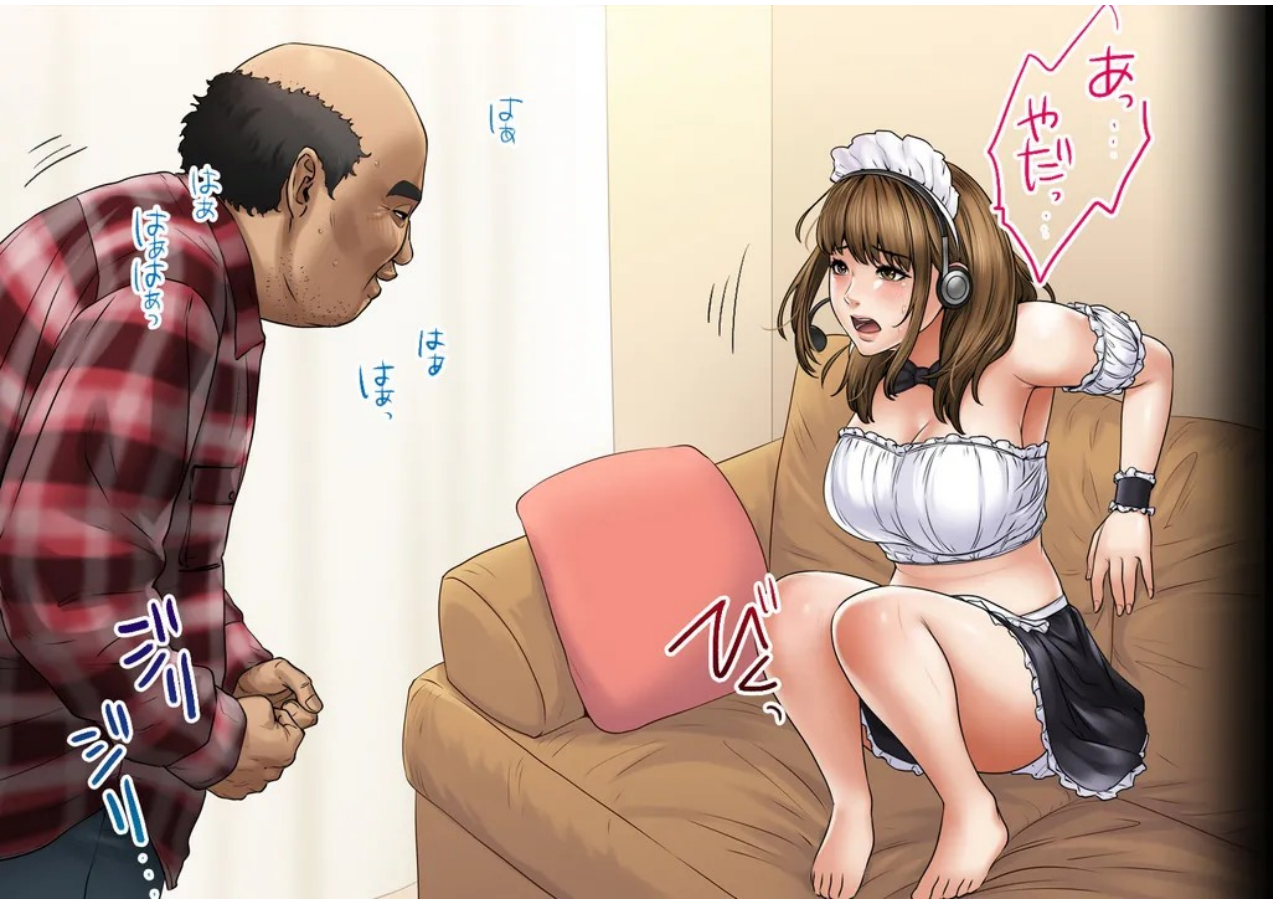
「あっ…あぁっ…あっあっ…あぁっ…イくっ…」

「あっ…イくっ……んぅっ…♥」
「はぁっ…はぁ…はぁはぁはぁはぁ……っ」
朱里がイきかけたその時、どこからか別の荒い息遣いが部屋の中に聴こえてきた。

「きゃぁあっ！」

突如現れた充に、朱里は悲鳴を上げた。
ソファーの端に慌てて身を引くも、それ以上下がれない。
充はじわじわと朱里との距離を詰める。

「あなっ…あなた誰ですか…」
「本物の朱里ちゃんだ♥…ふひっ、いつも観てるよ。」
ズイッ…ズイッ…と充は朱里に歩み寄る。
朱里は恐怖で言葉が喉に詰まってしまった。



「あっ……やぁ、…こない、で……」

必死に言葉を絞り出そうとするも、途切れ途切れになってうまく発することができない。

「はぁはぁっ…朱里ちゃんっ♥朱里ちゃん♥」

充は虚ろな目でなりふり構わずに朱里へ近づく。
頬に脂汗をにじませ、下品な笑みを浮かべる。

「ちょっ……んぶっ……」
「朱里ちゃん♥んぅ～…ちゅぅー♥」
無理やり顔を引き寄せて口づけをする。
舌をべろりと差し込み、歯並びをなぞるように舌を動かす。
朱里は思わず嗚咽を漏らした。

「ほら、朱里ちゃんも舌出して…」
「うぶっ……いっぁ…」
舌を絡め合い、どちらともわからない唾液が伝う。
ぺちゃくちゃ部屋中に音が響き、朱里は必死に抵抗しようと充の体を押しのけてみるも、無駄に終わる。

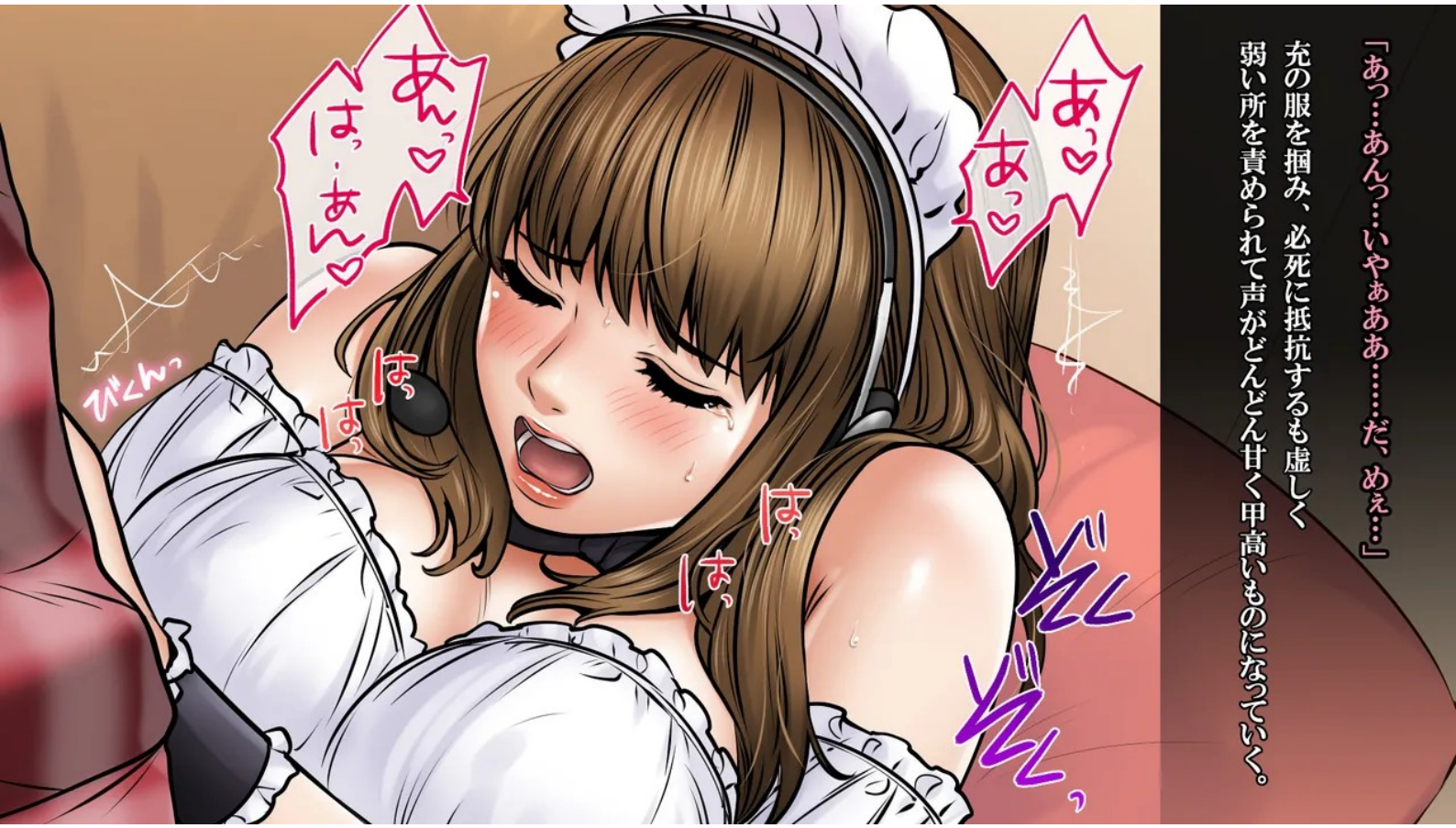
「朱里ちゃんの唇柔らかいね♥はぁっ…んぅっ…♥♥」
「おえっ……(気持ち悪いっ…気持ち悪いよ…)」
「んちゅっ、んぢゅっ♥おいしいな、朱里ちゃんの唾液♥」
「あぐっ……や、やめて…」
朱里の身体から力が抜けていく。

「おっと、こっちはもういいってことだね。
それじゃあ、次にしようか。」

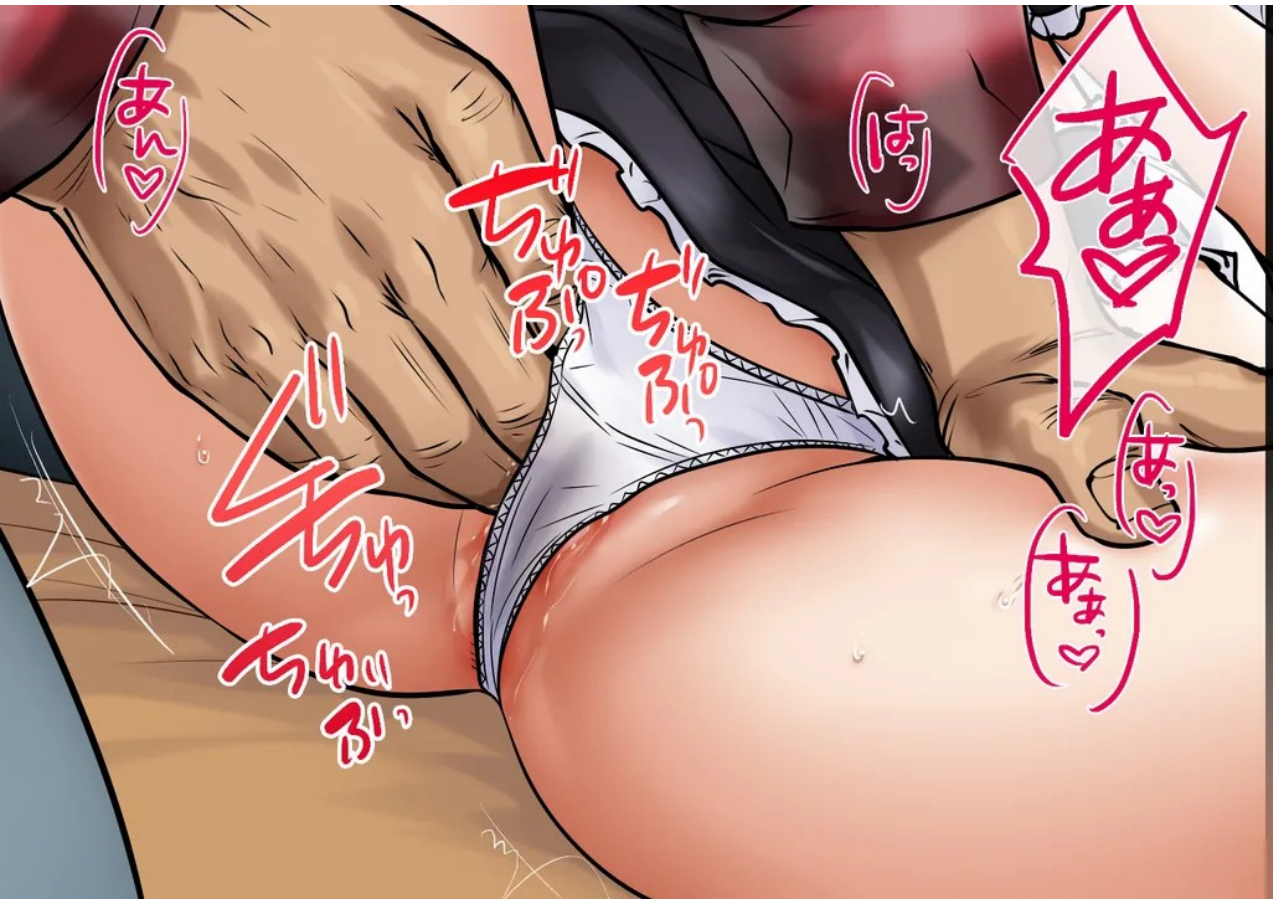
最後に舌同士を舐め合い、充は顔を離した。
そしてそのまま朱里の体を後ろに突き飛ばして
ソファーに押し倒す。

「さっきはイけなかったもんね。
今度は俺が朱里ちゃんのオナニーを手伝ってあげるね♥」
「はうっ…いやっ……」
朱里は足を閉じようとしたが、抑え込まれた。
そのまま充の指があそこへと伸ばされる。

「すごい濡れてるね。」
「ひぅっ…」
「朱里ちゃんの弱い所知ってるよ。」
そう言ってパンツ越しにクリトリスをこすりあげる。
襲ってくる刺激に抵抗する手から力が抜けた。


「あっ…あんっ…いやぁああ……だ、めぇ…」
充の服を掴み、必死に抵抗するも虚しく
弱い所を責められて声がどんどん甘く甲高いものになっていく。
あっ♡
あっ♡
あんっ♡
はっ・あん♡
はっ
はっ
はっ
はっ
ぶるんっ
どくんっ

「おまんこヌルヌルで指がずっぽり入っていくよ。」
朱里の膣内を探るように指をうねり動かす。
時折いいポイントを刺激されて、朱里が声を上げると
充はそこを重点的に責め上げた。



「あんっ…そこ、だめ… 私の、弱い所ばっかりい…んんっ…」
「良いんだよね？だってすごくエッチな汁が溢れてるもんね。」
あそこをいじるたびに水音が増し、
充の指に朱里の愛液が大量に絡みつく。

「んぅっ…や、やだ…（イっちゃう…っ、こんな男に…）」

「ナカの締まりがよくなってきた。イきそうなんだね、いいよ。」

指の動きを激しくして、朱里の絶頂を促す。

朱里は高揚感から身体に力が入り、小さく呼吸をした。

「……あああぁっ♥♥」

朱里は身体をビクリとしならせて絶頂を迎えた。

「はあっ…はあ、はあ……」
朱里は息を整える。
「朱里ちゃん、イった時の顔かわいい♥」
まだ呼吸のおぼつかない朱里の身体を起こし、
お尻を向ける形でソファーに寄り掛からせる。
びくっ
はあっ
はあ
びくんっ

「おほっ♥いい眺め。」

「くっ……も、ぅ…やめて、よぅ……」

朱里のおしりを広げ、じっくりと舐めまわすように見つめる。

パンツに染みた愛液が、うっすらとあそこが透けていた。

「くんくん…朱里ちゃんの匂い♥」

「へんた、いっ……」

パンツ越しに顔をうずめ、思い切りくんくんと匂いを嗅ぐ。

充はペロリと舌を這わせ、朱里の味を味わう。

「はぁはぁはぁっ…パンツも脱いじゃおうか～」

「あっ、ちょっ……ソコ舐めちゃ、あぁぁっ…」

お尻の穴を直に舐められ、朱里は身を震わせた。

身をよじろうとするも、お尻をがっちりつかまれて身動き取れない状態にされる。

「うそっ…汚いから、…本当にだめぇっ…あぁんっ♥」

「はぁっ…朱里ちゃんの美味しいよぉぉぉっ♥♥」

「あっ、あんっ…あひぃ…♥やだ、やだぁ…おかひく、なる…」

充の舌の動きに、朱里の頭が麻痺していくようだった。

快感が全身をめぐり、あそこからは愛液が止まることなく

溢れ出していく。

「ひぅっ……も、やめ…てぇ…あああぁぁっ！」
舌先で奥までグリグリされると、朱里の身体がはねる。
「気持ちいい？気持ちいいんでしょ？」
「あひいいっん…♥♥」
あぅんっ♥
ぢゅぽっ
ぢゅぽっ
ペロペロ

「ふぅー…ふー…っ」

快感に腰が抜け、睨むことしかできない朱里。

「ほらほら、もっと見えるようにして？
自分で広げて見せてよ。」

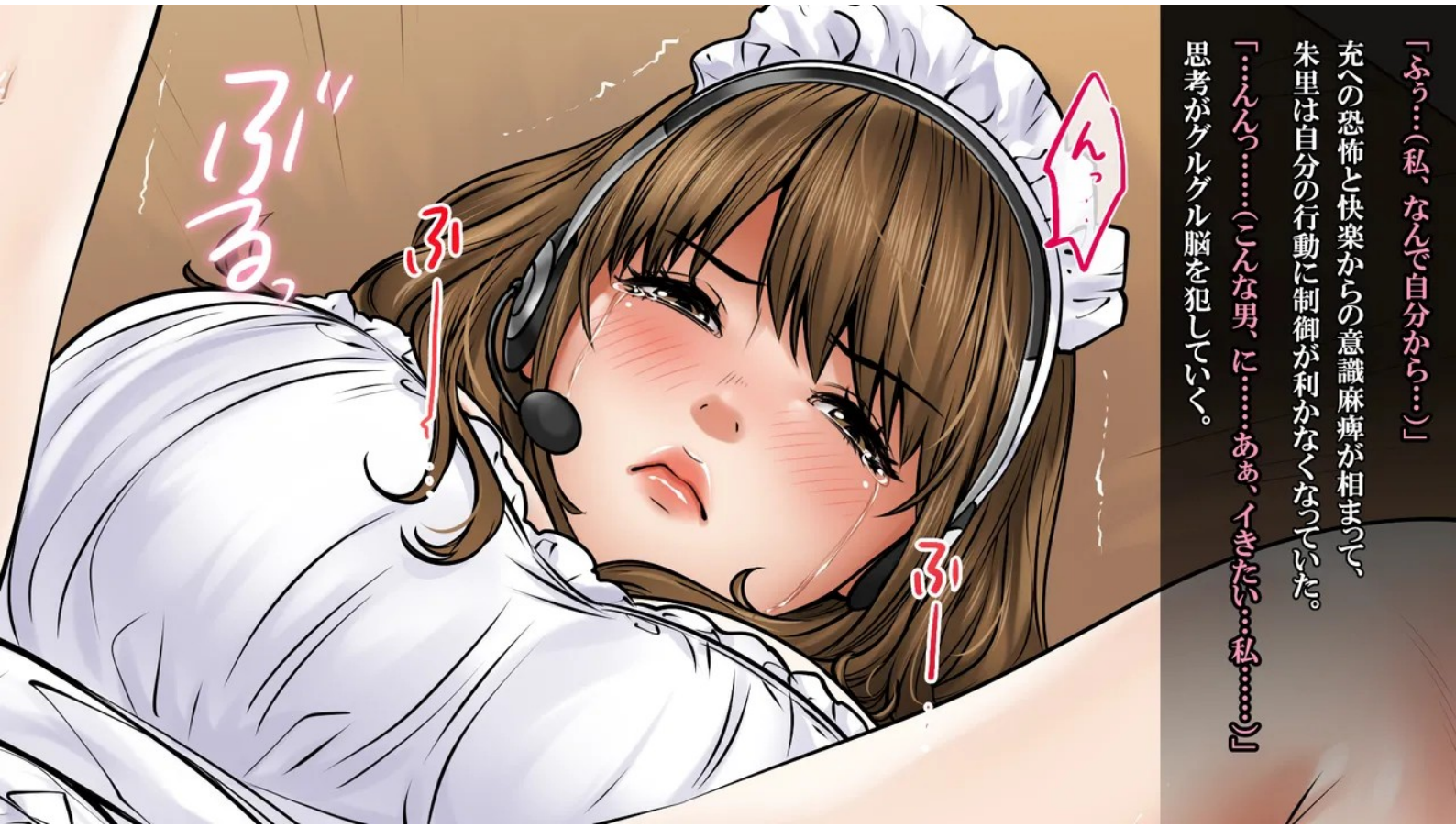
「んっ、んん…ぅ……」

朱里は震える手であそこを広げて見せる。

膣内の奥がヒクヒクと脈打っているのがよく見えた。

「朱里ちゃんのおまんこ♥ヒダが薄くて綺麗なピンク色だね

遊んでると思ってたけど、そんなことないんだね♥♥」



「ふぅ…（私、なんで自分から…）」
充への恐怖と快楽からの意識麻痺が相まって、
朱里は自分の行動に制御が利かなくなっていた。
「…んんっ……（こんな男、に……あぁ、イきたい…私……）」
思考がグルグル脳を犯していく。

「次はこっちの味を堪能させてもらおうかな♪」
「ひゃあぁっん！……あっ、ちょっ……あぁっ！」
充は広げられた朱里のまんこに舌を這わせた。
ムワッと広がる独特の香り、溢れる愛液をじゅるりとすする。

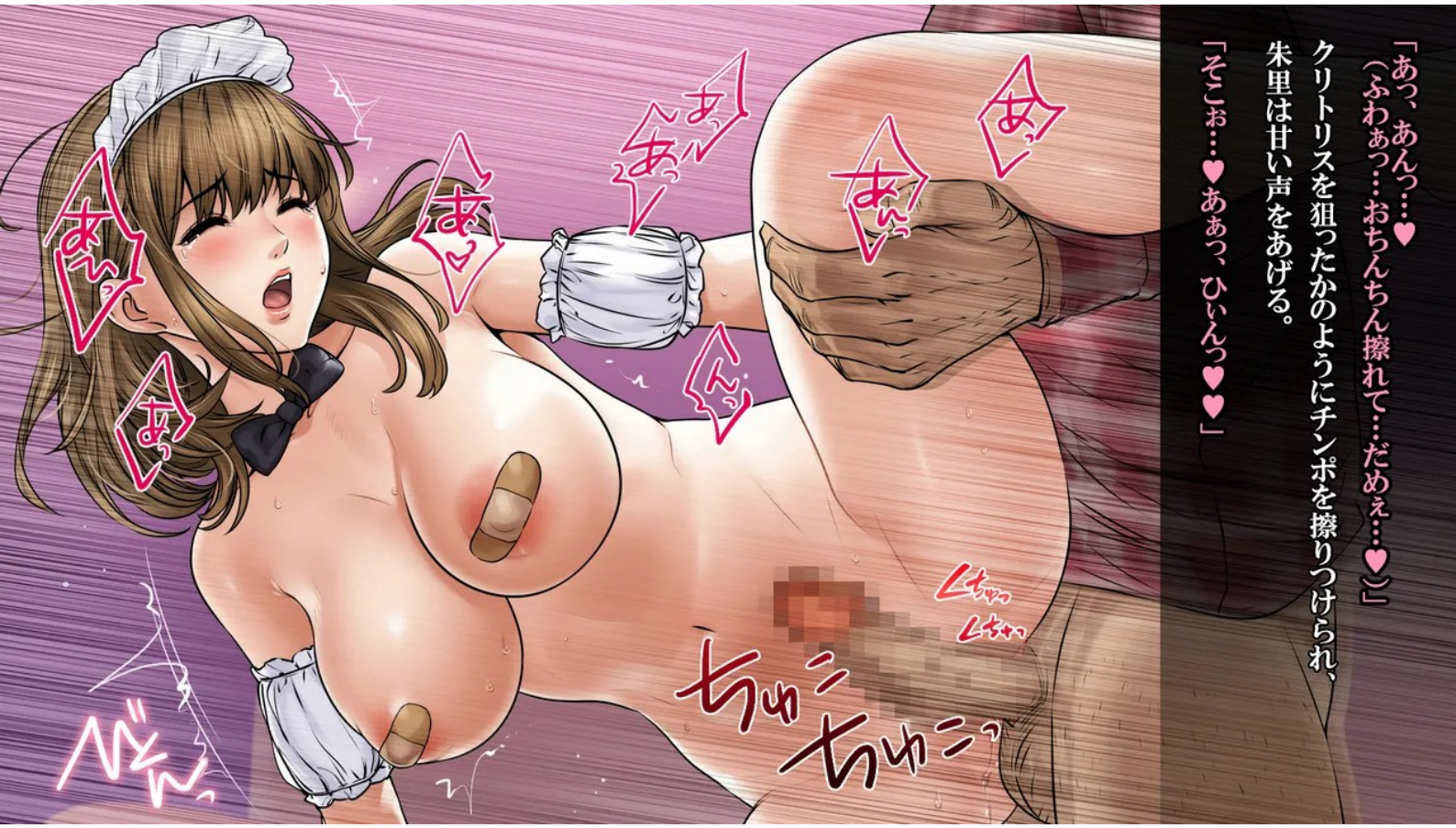
流れる愛液を舐めとるも、次から次へとあふれ出て
充の口回りはびちょびちょになってしまっている。
「んぅっ…あふぁっ……」
ぺちゃぺちゃっ…じゅる、じゅぼぼっ…ぢゅるっ
わざと音を立てられ、耳まで犯されている気分になった。

「あふっ…ひやぁっ、ん…♥クリはだめぇっ…♥♥」

「んふっ♥いつもクリちゃんいじるぐらい好きなんでしょ。」

充がクリトリスを集中的に舐めると、朱里は身体を小さくビクつかせて、軽く何度もイっていた。

「あっ！ちょっと……！」
いつの間にか充はズボンを脱ぎ捨て、朱里のあそこに勃起したちんぽを擦りつけた。
「すごいぬるぬるで気持ちいいよ♥」
ぬりっ
スリスリッ
ちゅくっ
ちゅくっ
キッ


「あっ、あんっ…♥
（ふわぁっ…おちんちん擦れて…だめぇ…♥）」
クリトリスを狙ったかのようにチンポを擦りつけられ、
朱里は甘い声をあげる。
「そこぉ…♥あぁっ、ひぃんっ♥♥」
あっ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
あぁ
ちゅこちゅこっ
ちゅこちゅこっ
ばんっ

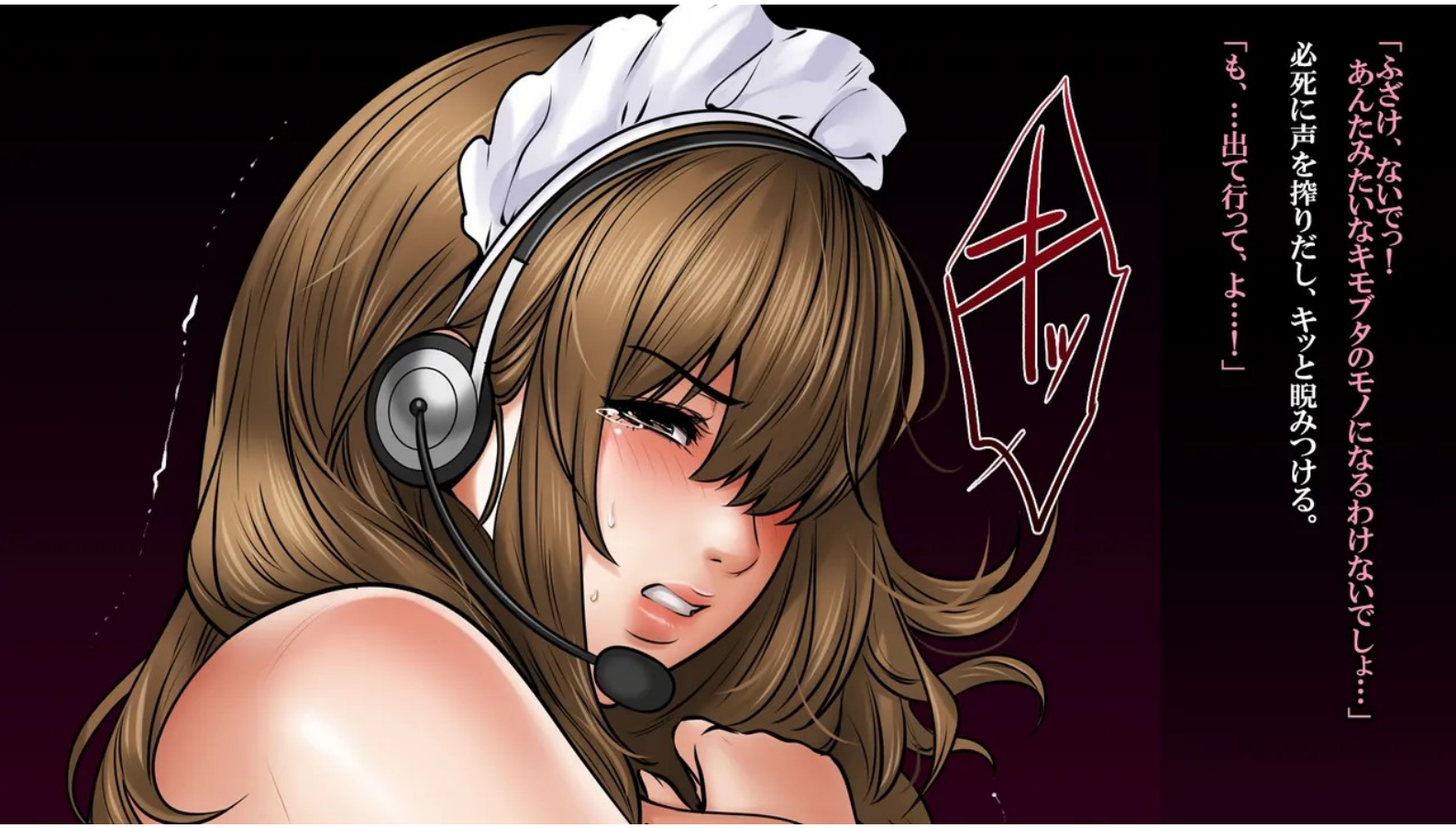
「あひいっ…♥（声が勝手に出ちゃうっ…）」
「はぁはぁはぁはぁはぁはぁっ……」
擦りつける速度は更に増し、充の息遣いもどんどん荒くなって
射精感が高まっていく。

「ふーっ…危ない、危ない。もうちょっとで出ちゃいそうだったよ。
出すときは朱里ちゃんのナカって決めてるのに…」
「ちょっと、何勝手な事言ってんのよ……っ！」
ピタリと動きを止められ、朱里は一瞬喪失感に襲われた。
しかし充の言葉にすぐ我を取り戻す。

「これも邪魔だから取っちゃおうか♥」
「あっ……やぁっ……」
「朱里ちゃんの乳首エロいねぇ♥♥」
鼻息が乳首をかすめ、朱里はビクッと身体を震わせる。

「こんなに乳首ビンビンにして、愛撫で感じてくれたんだね。」
「ちがっ…」
「隠さなくても大丈夫だよ。
朱里ちゃんの弱い所は全部知ってるからね。」
『全部知ってる』という充の言葉に悪寒が走った。

「毎日、毎日、毎日……朱里ちゃんを見てたんだから。」
声色がうっすらと変わったのに気づいた。
「いつもはみんなの朱里ちゃんだけど…ぐひっ…
きょ、今日は俺だけのモノだよ♥」
ひっ…
あっ
あっ
あっ
あっ
ズリッ♥


「ふざけ、ないでっ！
あんたみたいなキモブタのモノになるわけないでしょ…」
必死に声を搾りだし、キッと睨みつける。
「も、…出て行って、よ…！」
キッ

「ダメだよ。朱里ちゃんはそんな汚い言葉は吐かないんだ。
悪いお口は塞いじゃおうね♥」
「んぢゅっ……!?」
強引に口を塞ぎ、喉の奥まで舌をにゅるりと差し入れると
朱里は思わずせき込んだ。

「ふっ、あぁ……やめっ……て…気持ち悪、いっ…」
「んぅ～…これはちょっとお仕置きが必要かな？」
「ひぃっ……」
「大丈夫、俺が朱里ちゃんにひどい事するわけないでしょ？
エッチな可愛い朱里ちゃんに戻すために、ちょぉーっとだけ
躾をし直してあげるからね♥」

充は軽く放心した朱里をソファーに寝かせた。
そのままちんぽに愛液を絡める。
「いつもローターとかバイブばっかりだったけど
今日は本物のおちんちんが挿っちゃうよ♥」
「はあっ……ほ、え…？」

「やだっ、あんっ♥…抜いてぇぇぇぇ……っ！」

「いやいや、朱里ちゃんのおまんこが離してくれないよ。」

勢いよく腰を打ち付けると、激しい水音が部屋中に響き、ソファーがギシギシとベッドのように軋む。

「あんっ、あぁっ……！（やっ、イっちゃう…♥）」

あそこの奥を突き上げられ、朱里は昂る快感に
ゆっくりと腰が浮き上がってきていた。

「はぁっ、あうっ…イ、イっく……んぅっ…」

——ピタリッ……

「なんっ……で…（イきそうだったのに…）」
イけなかった物足りなさに、朱里は弱弱しい声をあげた。
感じていた快感の波が、ゆっくりと静まっていく。
「ぐふふ…これは躾だからね。簡単にはイかせないよ。」
ぞくっ

「ほら、また挿っていくよ♥
朱里ちゃんの弱点はどこかなぁ～？」
「んぅっ……」
先ほどまでの激しさとは違い、
今度はゆっくりと朱里の膣内を探るように挿入していく。

「あひぃっ…ん♥」

とある一か所にちんぽがこすれた瞬間、朱里が今までにない声をあげて、充はにやりと笑みを浮かべた。

「ココがいいんだね？」

「あひっ、あああぁっ！ソコぉ…っ、だめっ！
（なにっ…さっきと違うっ…こんなのおかしくなるっ）」

感じる所を集中的に突き上げられ、すぐさま感度があがり、
頭の中がグワングワンと麻痺していく

「あっ、すごぉっ……あうっ……イ、っく…」
今まで感じたこともない刺激に、朱里は声をあげまくった。
呼吸が小刻みになり、絶頂感が一気に押し寄せてくる
あっ♡イくっ♡
すごっ♡はげしっ♡
あんっ♡
あっ♡
あっ…♡
あっ
あっ…
イク♡
あぁっイッ…
ポッ
ポッ

——ピタッ

「あぅ……(またぁ……)」
「ふひっ…何か言いたそうだね?」
朱里が小さく声を漏らすと、充は汚い笑みを浮かべる。
挿入されたままのちんぽを、朱里のあそこがキュッと締め付ける。

「いつもライブでやってるみたいにおねだりしてみて。」
「そんなこと?……」
「できるまでイかせてあげないよ?」
充の言葉に朱里がグッと言葉を呑み込んだ。

「うぅっ…（イきたい、イきたぁい…イキタイ、イキタイ…）」
イけそうでイけない生殺しの状態に、
朱里の脳内は快感を強く求めていた。
はぁっ…
はぁっ
はぁっ
はぁはぁっ…♡
ビくっ

「お願いしますっ…おちんぽでイかせて♥」
我慢できなくなった朱里が大声をあげる。
おちんぽでイかせて♥
はぁっ
はぁっ♥
はぁっ♥
びくっ

「ふひっ…いつもの朱里ちゃんに戻ってきたね。」

充は先ほど見つけた朱里の敏感ポイントを刺激する。

「はぁっ…あっぁ…そこ…グリッてされたら
頭おかひく、なっひゃう…♥♥」

「あっ、あんっ♥いいっ…ソコォ♥
気持ち、いいっ…んんぅっ…あぁあっ♥♥」

「はぁはぁはぁはぁっ…俺も、そろそろ…イくよっ…」
「あんっ…あんあんっ♥な、ナカは…だめぇ…っ…」
「えぇ～…ナカに思いっきりビュッビュッしたいよ。」
「お願いっ、します…っ…」

「なんでもしますからぁっ…！
ナカだけはやめてえっ…デキちゃうっ、デキちゃうからぁ！」
絶頂を近くに感じながら、朱里は最後の理性で叫んだ。
「なんでも……ふふっ、しょうがないなぁ。
今回は外に射精してあげるね♥」
あっ♡
あん♡
あっ♡
だめぇ♡
はっ
はっ
あぁっ♡
あっ
あっ

「はぁっ…はぁはぁっ…デる…射精るよっ…！」
「あんあんあぁんっ♥イく、イクイクイくっ♥♥」
高速ピストンで二人の快感が上がっていく。
――パンパンパンッ、ジュブッジュプジュプっ…ズンズンズン

「あぁぁぁぁぁぁぁ～っ♥」

――ドピュッ

「はぁっ…はぁ…」
「ふぅー…ふぅっ…」
待ち望んだ最高の絶頂を迎え、朱里はそのまま
軽く意識を飛ばしてしまった。

「朱里ちゃん、大丈夫？
……あらら、気絶しちゃったのかな？……ん？」
あっ…
はぁっ…
はぁっ…
ドロッ
ぶくぶく
あー
あー
はぁっ…
はぁっ…
べくっ♡

充はライブチャットが継続していることに気が付いた。
今まで以上の閲覧者に一部始終放送されていたのを悟る。

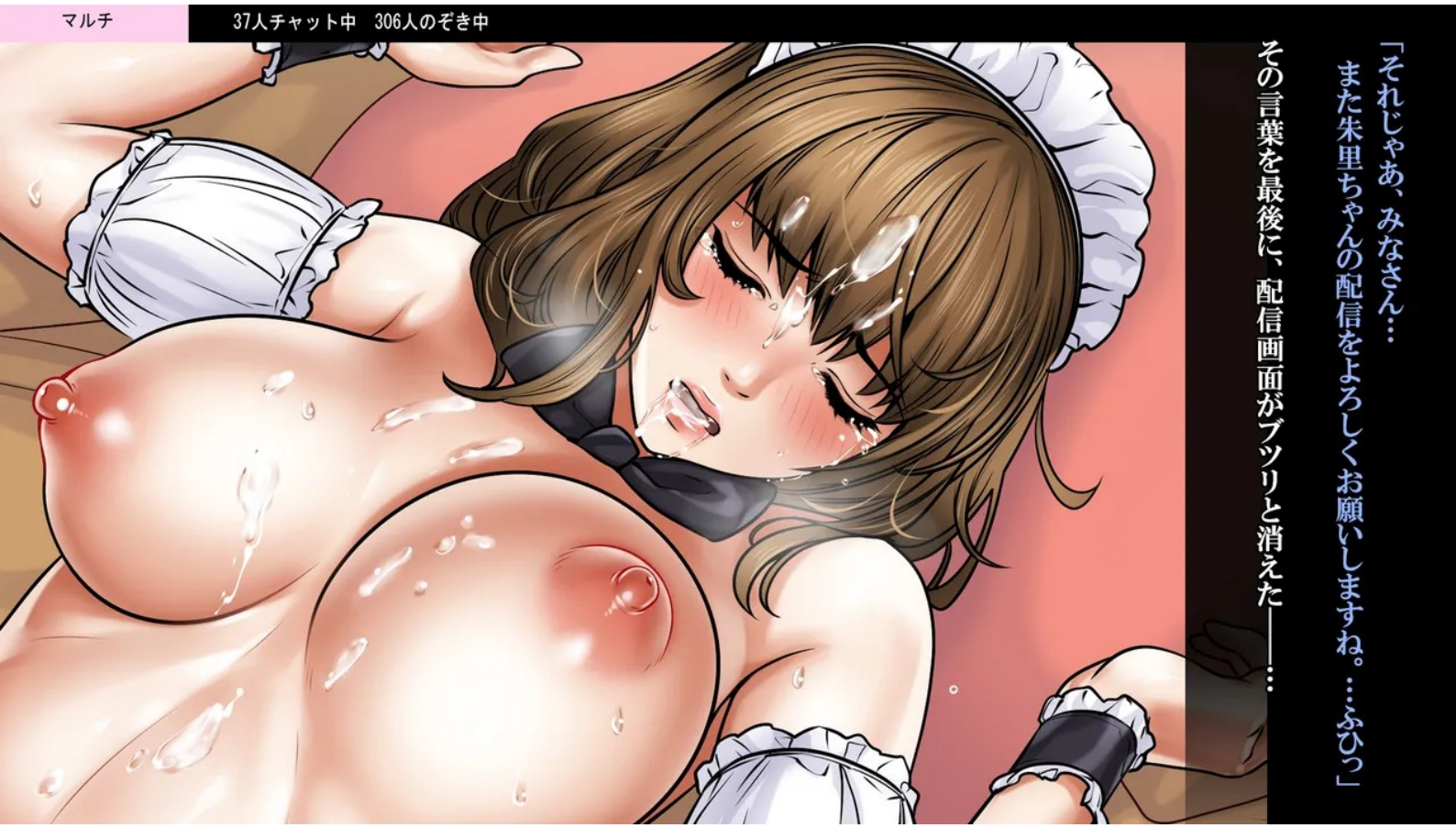
マルチ　37人チャット中　286人のぞき中

鉄人45号：誰だ？この男？
ピン介　：朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ　：これ運営的に大丈夫なのかな？
KinKin：なんだこれ？
鉄人45号：朱里ちゃん大丈夫なの？
ぶっさん　：もっとおっぱい責めろ！
部屋と私　：女の子エロ過ぎでしょう
You　：これってレイプだろ？
学徒の拳　：投げ銭なしでここまでやってくれるのか？
黒りんご　：めちゃめちゃ抜ける
下郎マン　：絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカ里　：男精子ですぎだろ
宗男　：お 男気が付いたぞ
寺さん　：男ちんこ隠せよな
ボブ　：これから3Pとかあるかな？

「朱里ちゃん、閲覧者が増えてよかったね。」
「は…ふぃ……」
朱里はぼんやりとした意識の中で返事もどきをする。

マルチ　37人チャット中　286人のぞき中

鉄人45号：誰だ？この男？
ピン介　：朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ　：これ運営的に大丈夫なのかな？
KinKin　：なんだこれ？
鉄人45号：朱里ちゃん大丈夫なの？
ぶっさん　：もっとおっぱい責めろ！
部屋と私　：女の子エロ過ぎでしょう
You　：これってレイプだろ？
学徒の拳　：投げ銭なしでここまでやってくれるのか？
黒りんご　：めちゃめちゃ抜ける
下郎マン　：絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカ里　：男精子ですぎだろ
宗男　：お 男気が付いたぞ
寺さん　：男ちんこ隠せよな
ボブ　：これから3Pとかあるかな？


マルチ
37人チャット中　306人のぞき中
「それじゃあ、みなさん…
また朱里ちゃんの配信をよろしくお願いしますね。…ふひっ」
その言葉を最後に、配信画面がブツリと消えた――…

氏名

KURITANI AKARI
栗谷 朱里

誕生日	7/5
BWH	86/57/88
バストカップ	E
血液型	AB
職業	配信者

性格

明るく天真爛漫なタイプ。勉強など苦手なものからはすぐに逃げたくなって、なかなか続かない。お金（コイン）にがめつく、寄ってくる男は全員金づるだと思っている。

シチュエーション

学校卒業後、ライブチャットレディとして荒稼ぎをしていた。
最近儲けたお金で実家から一人暮らしへ転移を済ませる。
引っ越して初のライブ中、壁が薄かったために隣の部屋で朱里のライブをみていた充が朱里に気づく。ベランダからのぞくと部屋の鍵はかかっておらず、充はチャンスと思い部屋へ侵入。
当然の乱入に朱里は頭が追い付かず、ライブを配信したまま無理やり犯されてしまう。
終わったころには閲覧者が今まで以上に増えていた…

寸止めで焦らし、自ら懇願するよう仕向けられ、絶頂したい朱里は無我夢中でちんぽを求める♥♥

一人称	私
二人称	貴方

家族構成

父親・母親
姉・妹1・妹2

好きなもの

ライブチャット
ミルクレープ
羽振りのいい人（お金持ち）
オナニー♥

嫌いなもの

労働
サラダスティック
自己中な人
喉マンコ♥

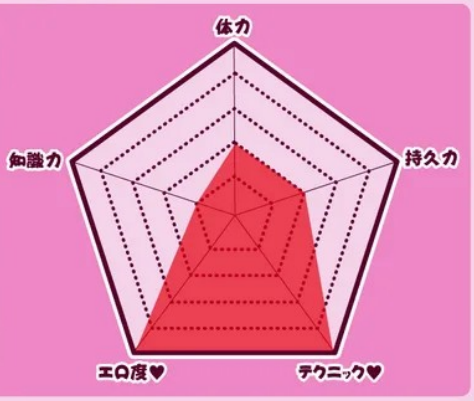
ステータス

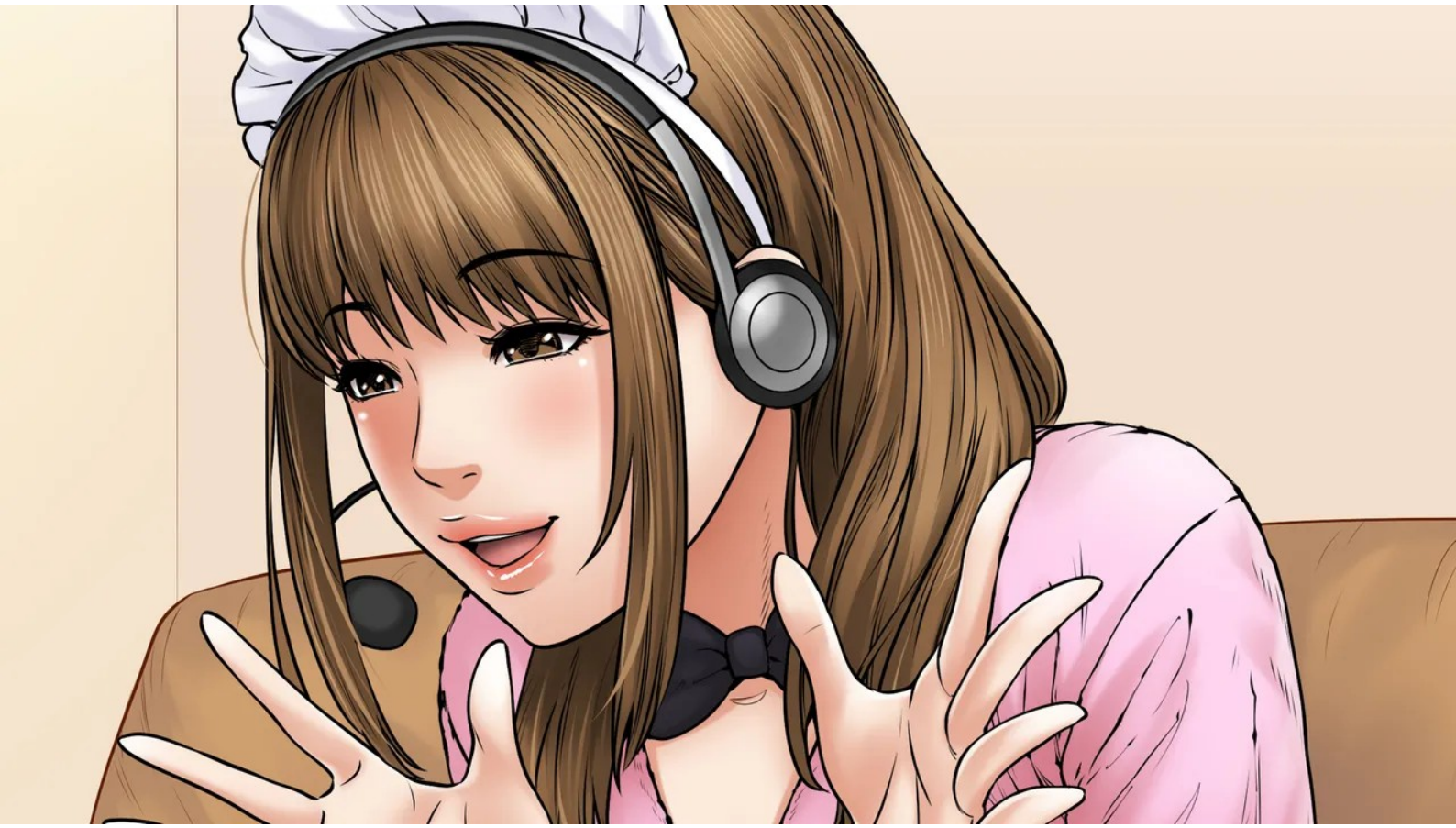
【体力】
平気やや下回り。部屋で引きこもっていることの方が多いので体力は低く、日差しは苦手。
運動も全然ダメダメだが、体は柔らかい。

【持久力】
体力と同じく持久力少なめ。オナニーも一回イッたらすぐ眠気に襲われるタイプで長時間えっちぃことはできない。

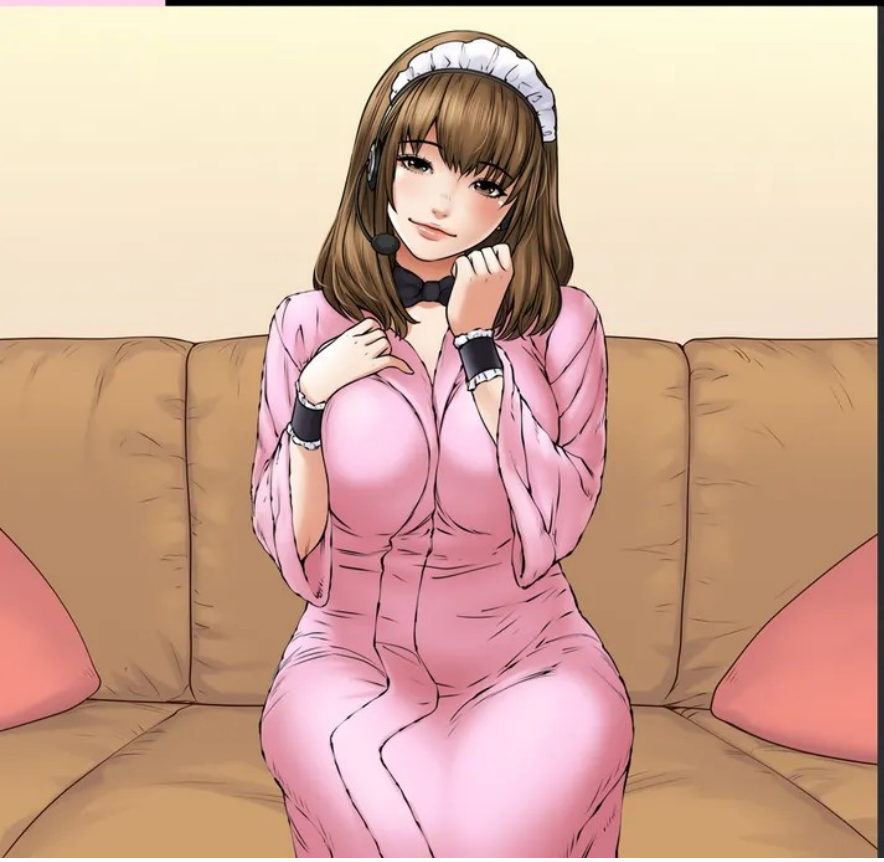
【知識力】
おバカ。学生時代も成績は下気味で、卒業も危ぶまれるほどだった。しかし、パソコンなどの知識はややある方。

【エロ度・テクニック♥】
顔のレベルは中ぐらいだが、とにかく仕草がエロく男を引き付ける魅力がある。エロいことは好きなので、エロの知識やテクニックは独学で勉強。
ライブオナニーでお金を稼ぐのを覚えてからはより一段エロく見える研究などしている♥





マルチ　2人チャット中　1人のぞき中



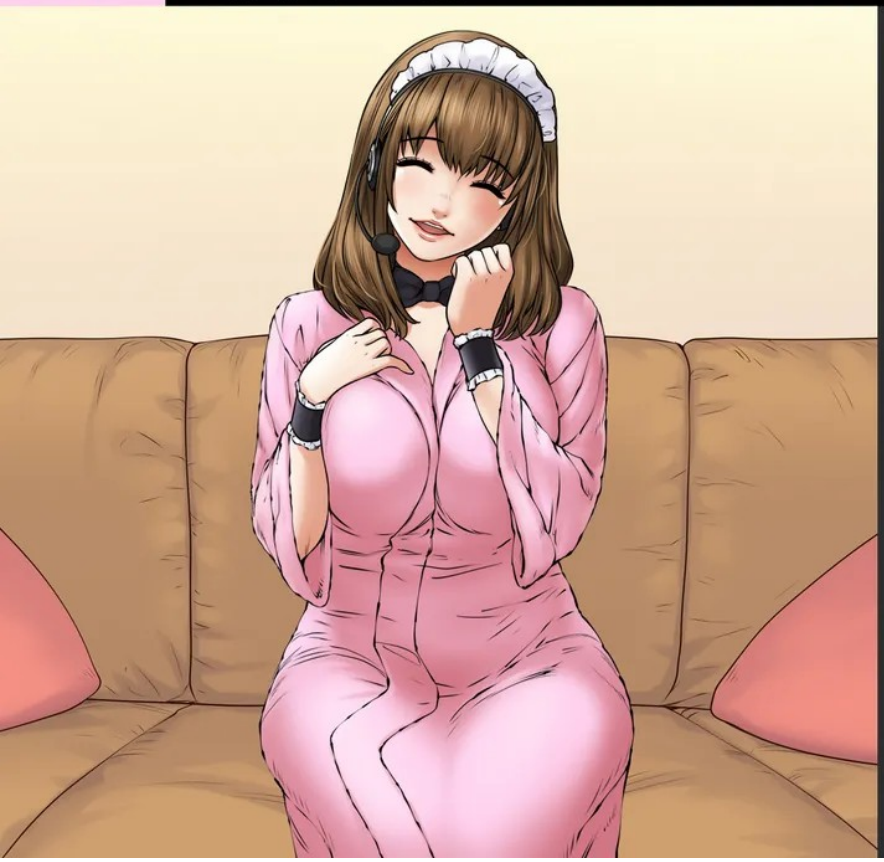
朱里：皆さんここんばんは！

朱里：朱里で～す

鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは

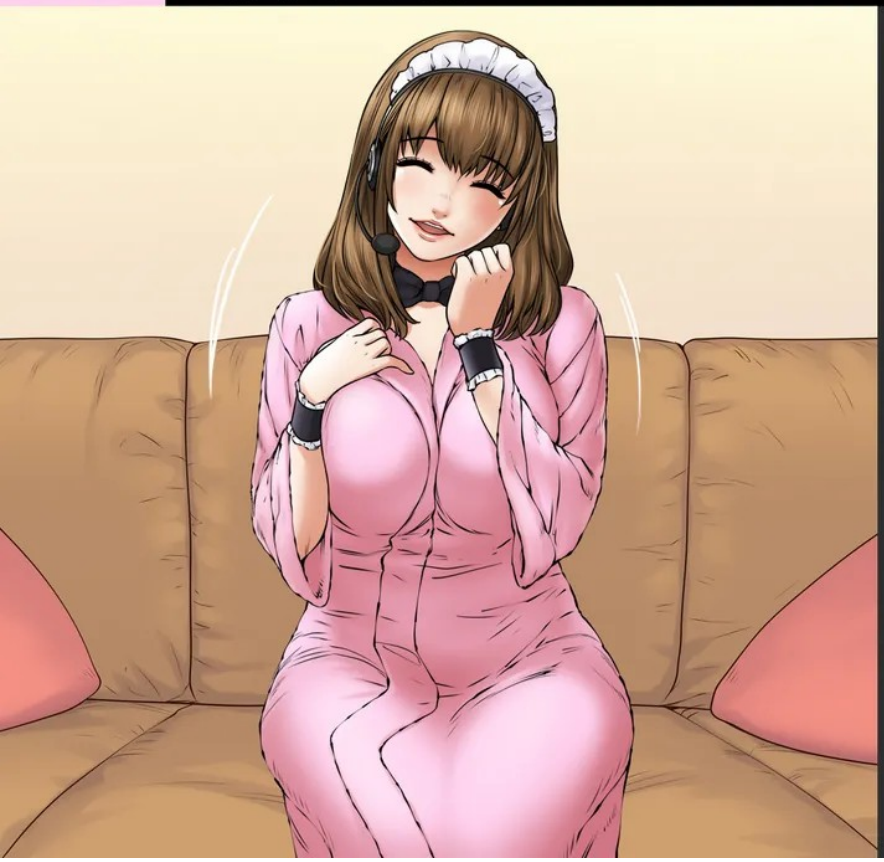
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる

マルチ　4人チャット中　3人のぞき中



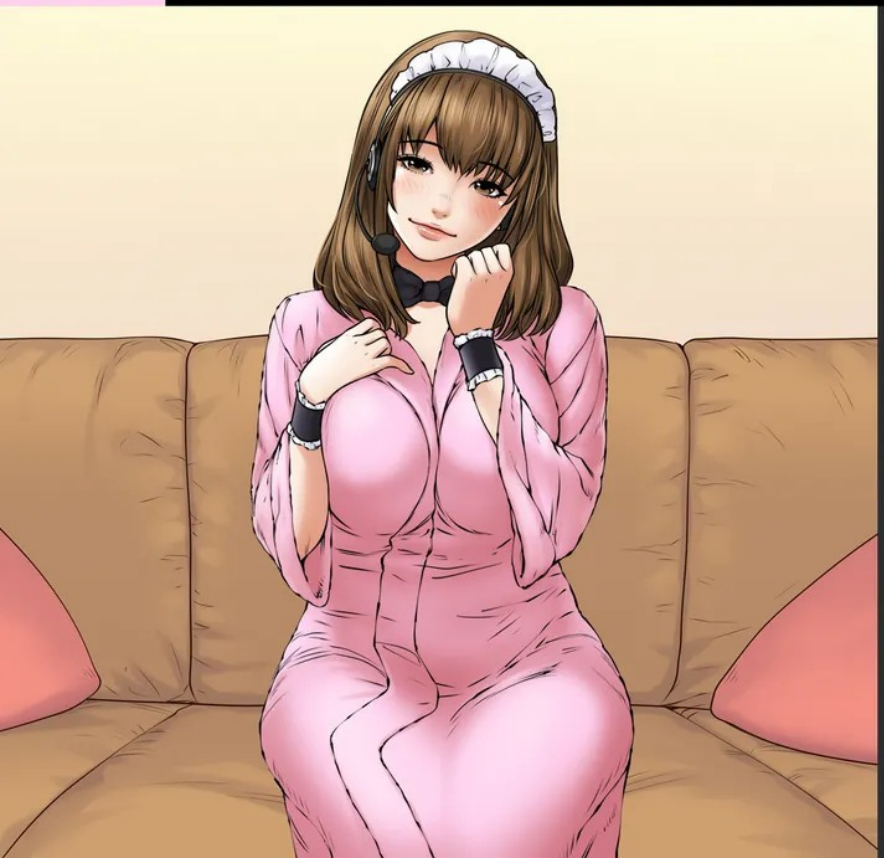
朱里：皆さんここんばんは！
朱里：朱里で～す
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる
ピエトロ　：早く脱げ
朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～
朱里：今日も頑張ります！
朱里：充さん！
　　いつもありがとうございます！
朱里：来てくれて嬉しい～
朱里：ピエトロさん初めまして～
朱里：えwいきなりですか～

マルチ　4人チャット中　3人のぞき中



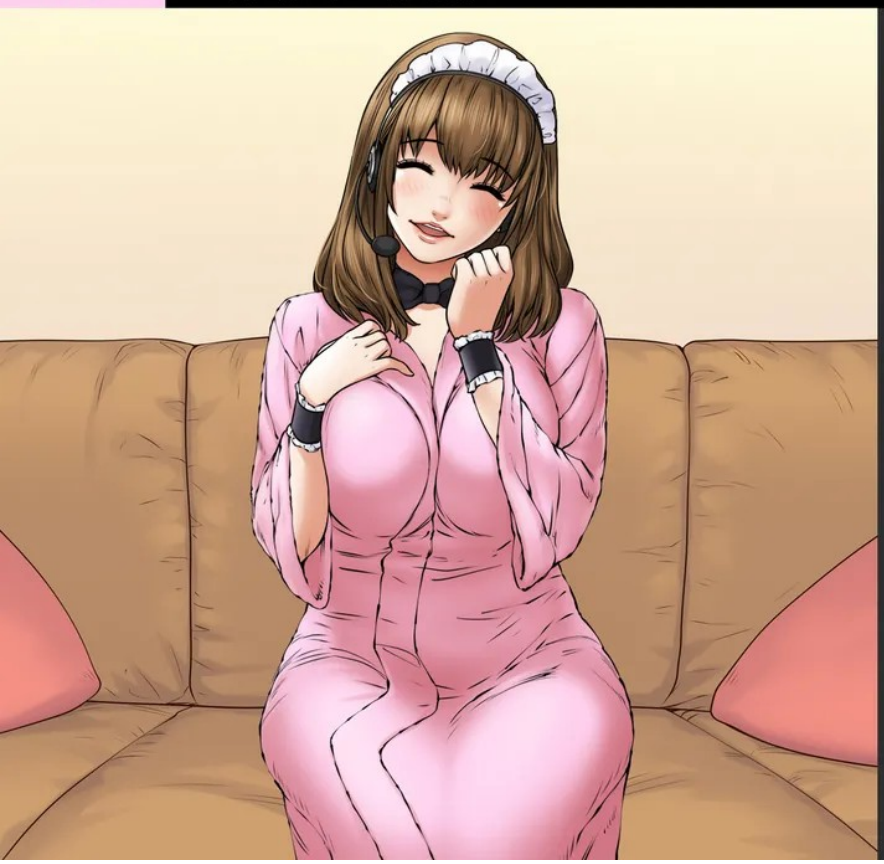
朱里：皆さんここんばんは！
朱里：朱里で～す
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる
ピエトロ　：早く脱げ
朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～
朱里：今日も頑張ります！
朱里：充さん！
　　いつもありがとうございます！
朱里：来てくれて嬉しい～
朱里：ピエトロさん初めまして～
朱里：えwいきなりですか～
充　：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？
朱里：はいそうなんです！
朱里：この下にみんなが
　　喜びそうな衣装着けてます！

マルチ　4人チャット中　10人のぞき中



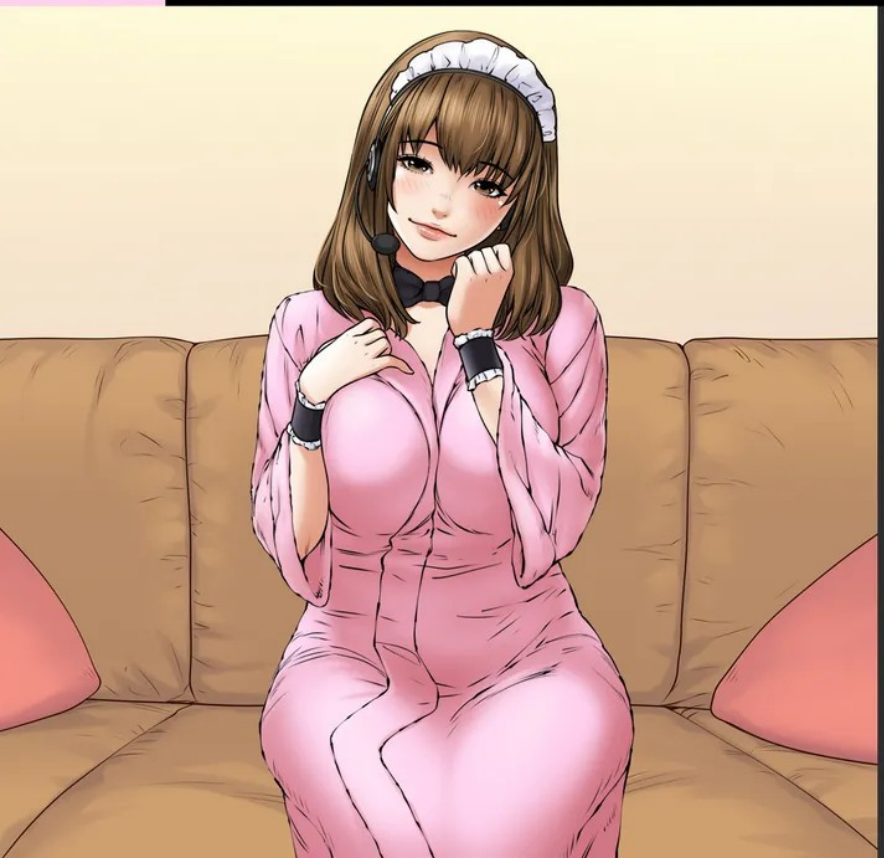
朱里：皆さんここんばんは！
朱里：朱里で～す
鉄人45号：朱里ちゃんこんばんは
充　：朱里ちゃん今日も可愛すぎる
ピエトロ　：早く脱げ
朱里：鉄人45号さん昨日ぶりです～
朱里：今日も頑張ります！
朱里：充さん！
　　いつもありがとうございます！
朱里：来てくれて嬉しい～
朱里：ピエトロさん初めまして～
朱里：えwいきなりですか～
充　：朱里ちゃん今日はガウンなんだね？
朱里：はいそうなんです！
朱里：この下にみんなが
　　喜びそうな衣装着けてます！
鉄人45号：なにそれ気になる！
充　：朱里ちゃんは何着ても似合うから♪
ピエトロ　：早く脱げ
ピエトロ　：早く脱げ
ピエトロ　：早く脱げ

マルチ　4人チャット中　12人のぞき中



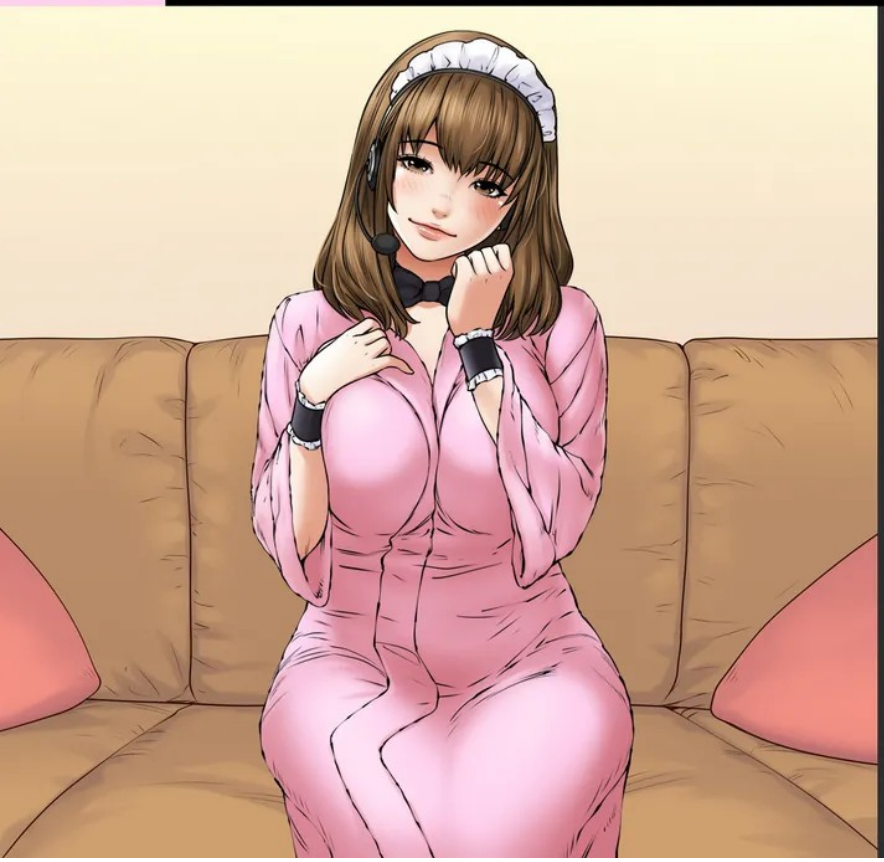
鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！

マルチ　4人チャット中　12人のぞき中



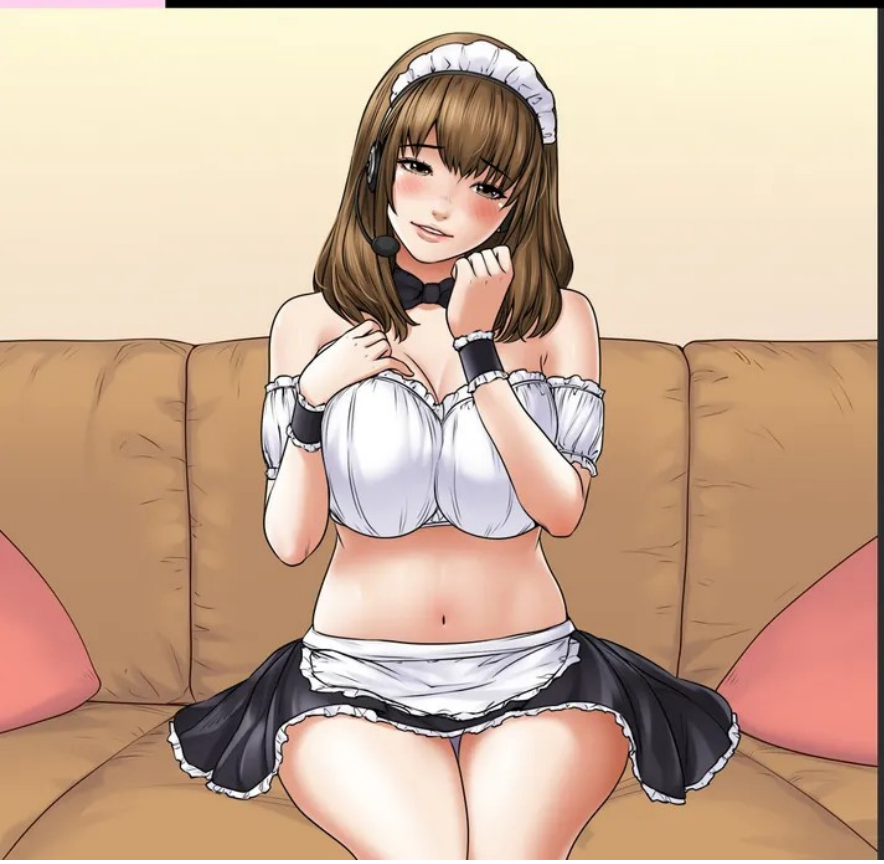
鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！
朱里：それじゃあ皆さんから
朱里：1000コインいただいたら
　　脱いじゃいますよ～
充さんが1000コイン送りました。
鉄人45号さんが1000コイン送りました。
ピエトロさんが200コイン送りました。

マルチ　4人チャット中　17人のぞき中



鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！
朱里：それじゃあ皆さんから
朱里：1000コインいただいたら
　　脱いじゃいますよ～
充さんが1000コイン送りました。
鉄人45号さんが1000コイン送りました。
ピエトロさんが200コイン送りました。
朱里：凄い！
　　こんなにありがとうございます～
朱里：じゃあ脱いじゃいます！

マルチ　4人チャット中　17人のぞき中

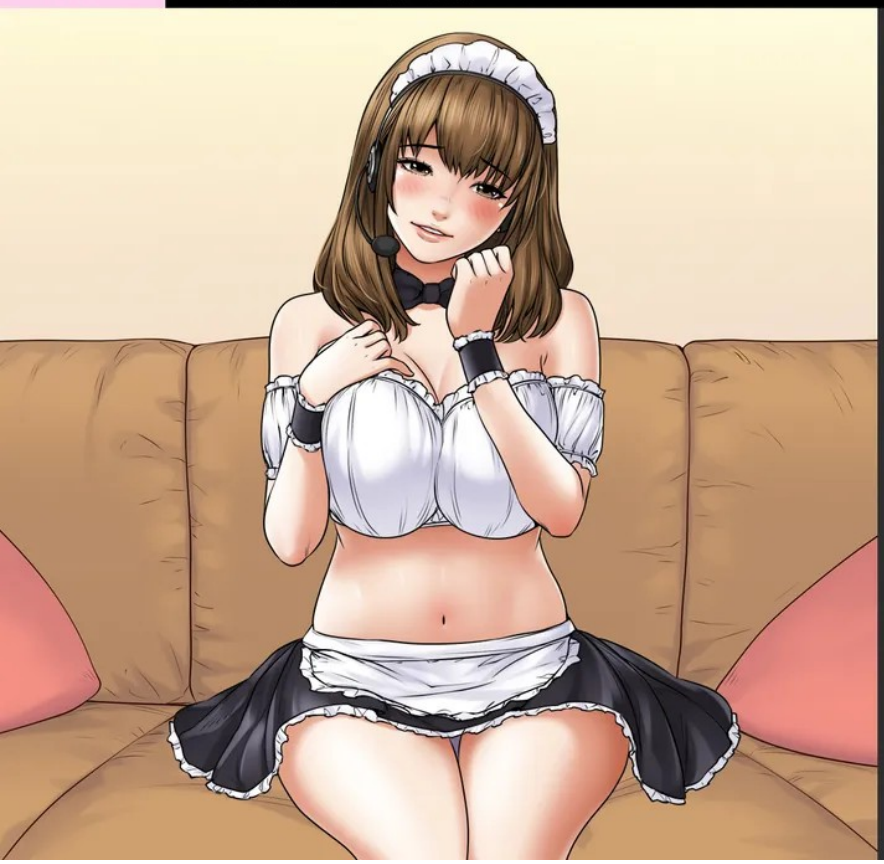


鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！
朱里：それじゃあ皆さんから
朱里：1000コインいただいたら
　　脱いじゃいますよ～
充さんが1000コイン送りました。
鉄人45号さんが1000コイン送りました。
ピエトロさんが200コイン送りました。
朱里：凄い！
　　こんなにありがとうございます～
朱里：じゃあ脱いじゃいます！
朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな
　　メイド衣装でした～

マルチ
4人チャット中　17人のぞき中
鉄人45号：どんな衣装だろ？
乳首勃ってる？
ノーブラじゃん
エロい
おっぱいおっぱい！
もっとカメラに寄って！
おおっ！キタ――――(゜∀゜)――――!!

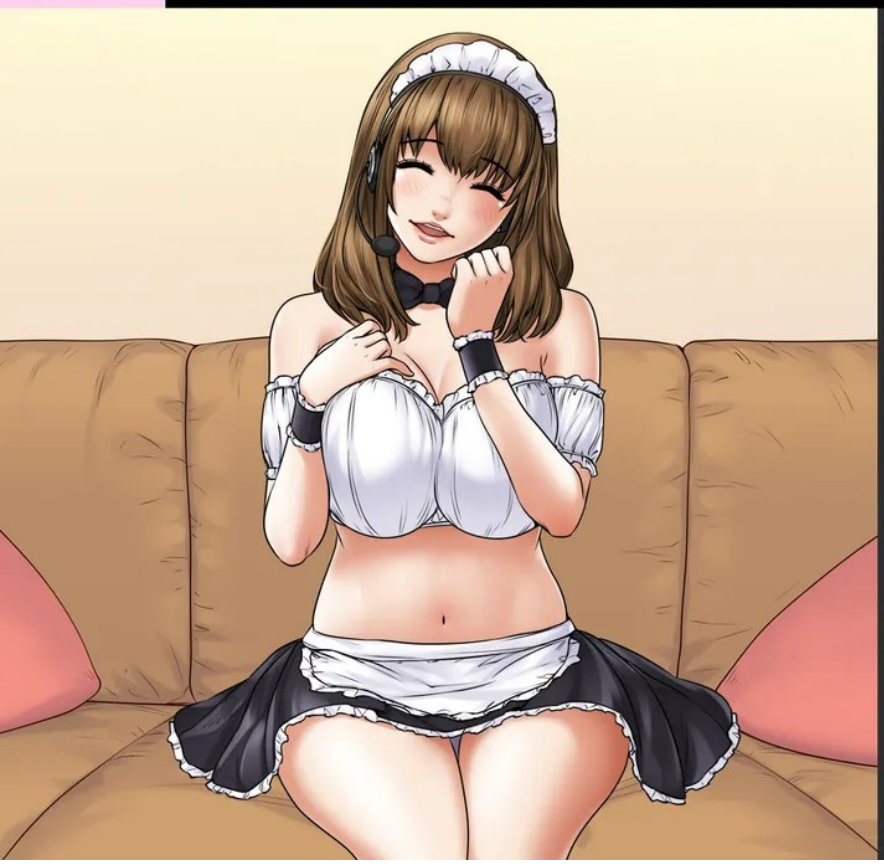
マルチ
4人チャット中　17人のぞき中
鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
パンツパンツパンツパンツパンツ
勃起不可避hshs
45454545454545
へそ可愛い♥
もっと足開いて見せてー！
見えそうで見えないのが逆にエロいな

マルチ　4人チャット中　17人のぞき中



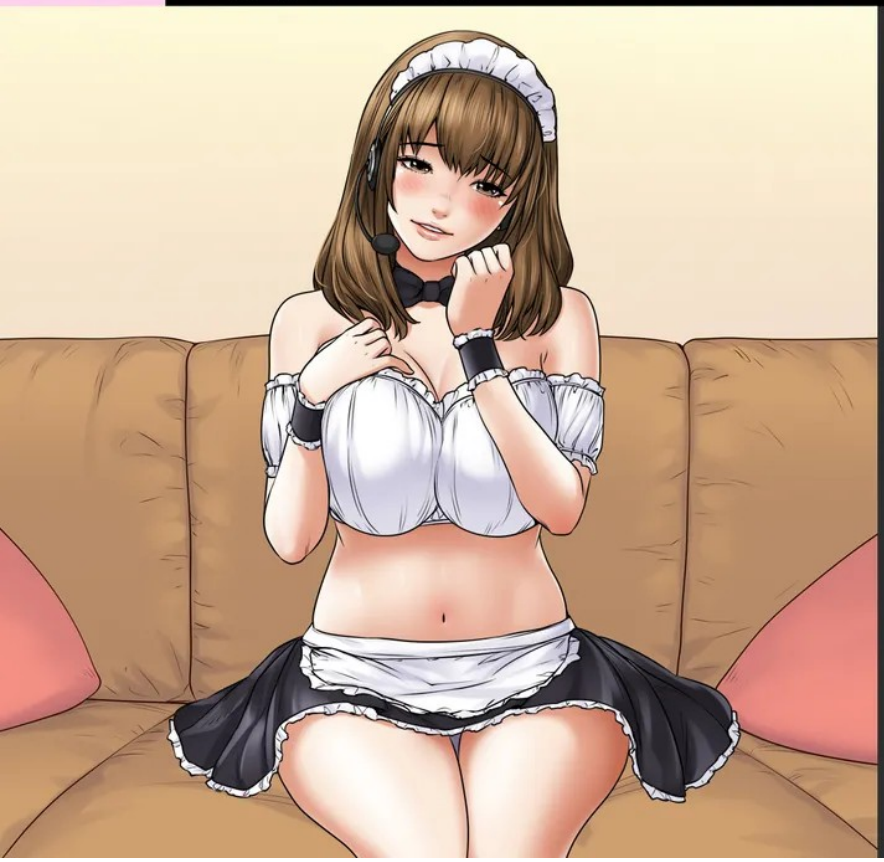
鉄人45号：どんな衣装だろ？
充　：ガウン脱いで欲しいな
ピエトロ　：だから早く脱げよ
朱里：みんな下が気になるみたいですね！
朱里：それじゃあ皆さんから
朱里：1000コインいただいたら
　　脱いじゃいますよ～
充さんが1000コイン送りました。
鉄人45号さんが1000コイン送りました。
ピエトロさんが200コイン送りました。
朱里：凄い！
　　こんなにありがとうございます～
朱里：じゃあ脱いじゃいます！
朱里：じゃーん！下はちょっとエッチな
　　メイド衣装でした～
鉄人45号：似合いすぎる！
充　：とっても可愛いけど
　　動いたら下も見えちゃいそう…
ピエトロ　：それも脱げ
朱里：鉄人45号さんありがとう～
朱里：実は胸には絆創膏貼ってるんで
朱里：ポロリはないです！
朱里：ピエトロさんはせっかちですね～

マルチ　4人チャット中　10人のぞき中

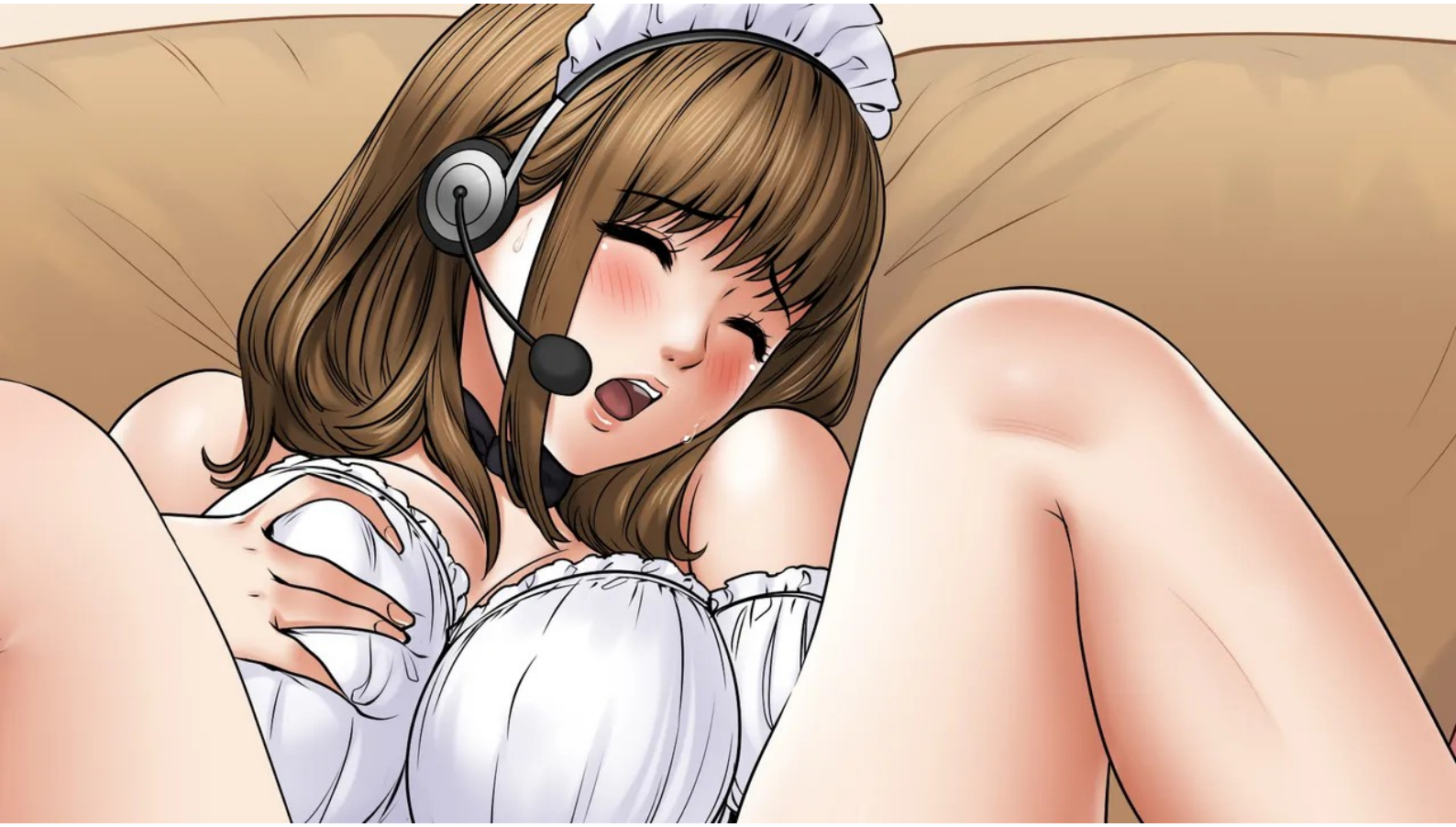


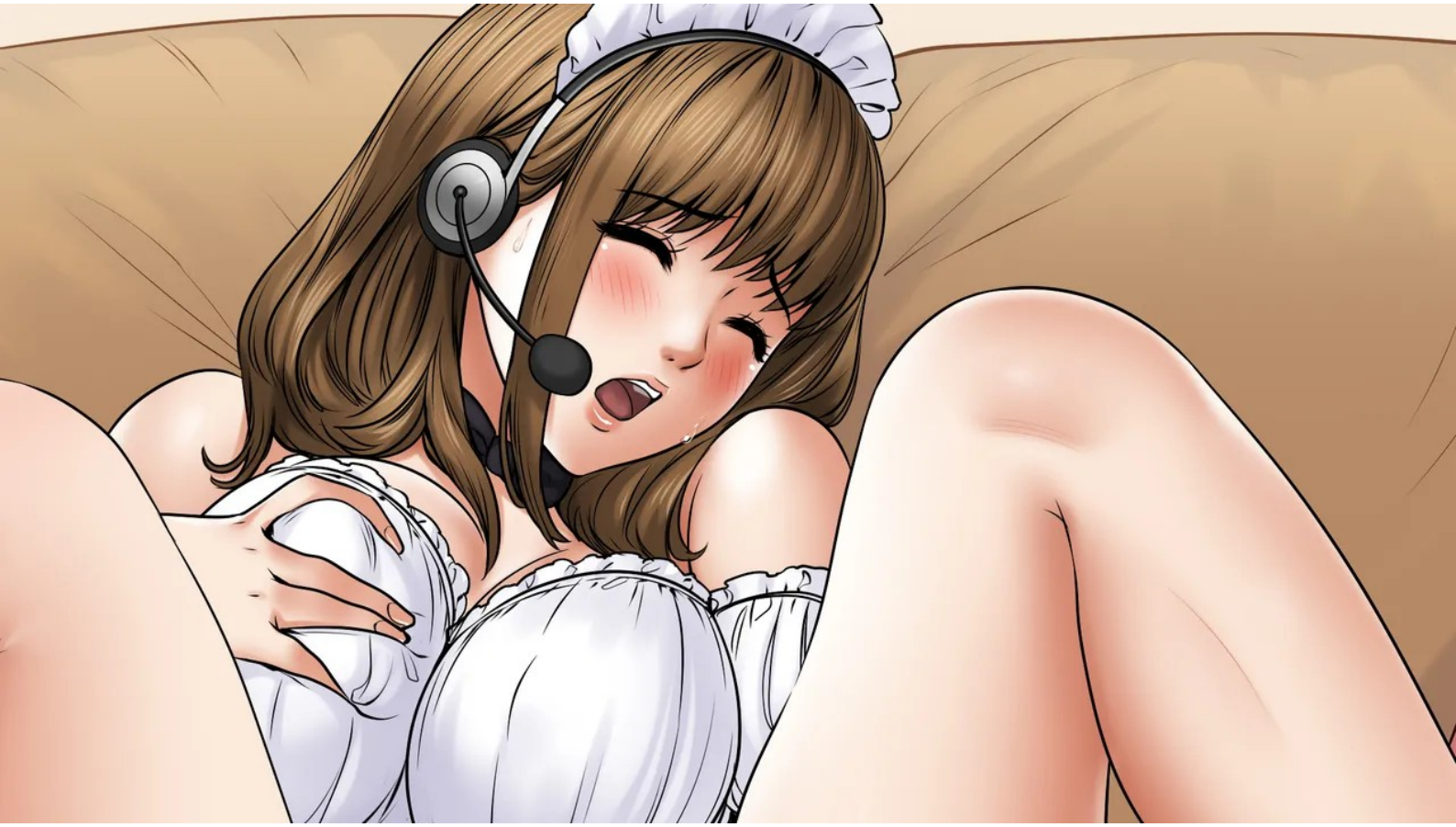
朱里：脱ぐのもいいですけど
朱里の恥ずかしいところ
見てくれませんか？
鉄人45号：見たい！
今日はその衣装でしてくれるの？
充　：いつでも準備できてるよ
ピエトロ　：見せてみろ
朱里：それじゃあ恥ずかしいけど
5000コインいただいたら
見せちゃおうかな

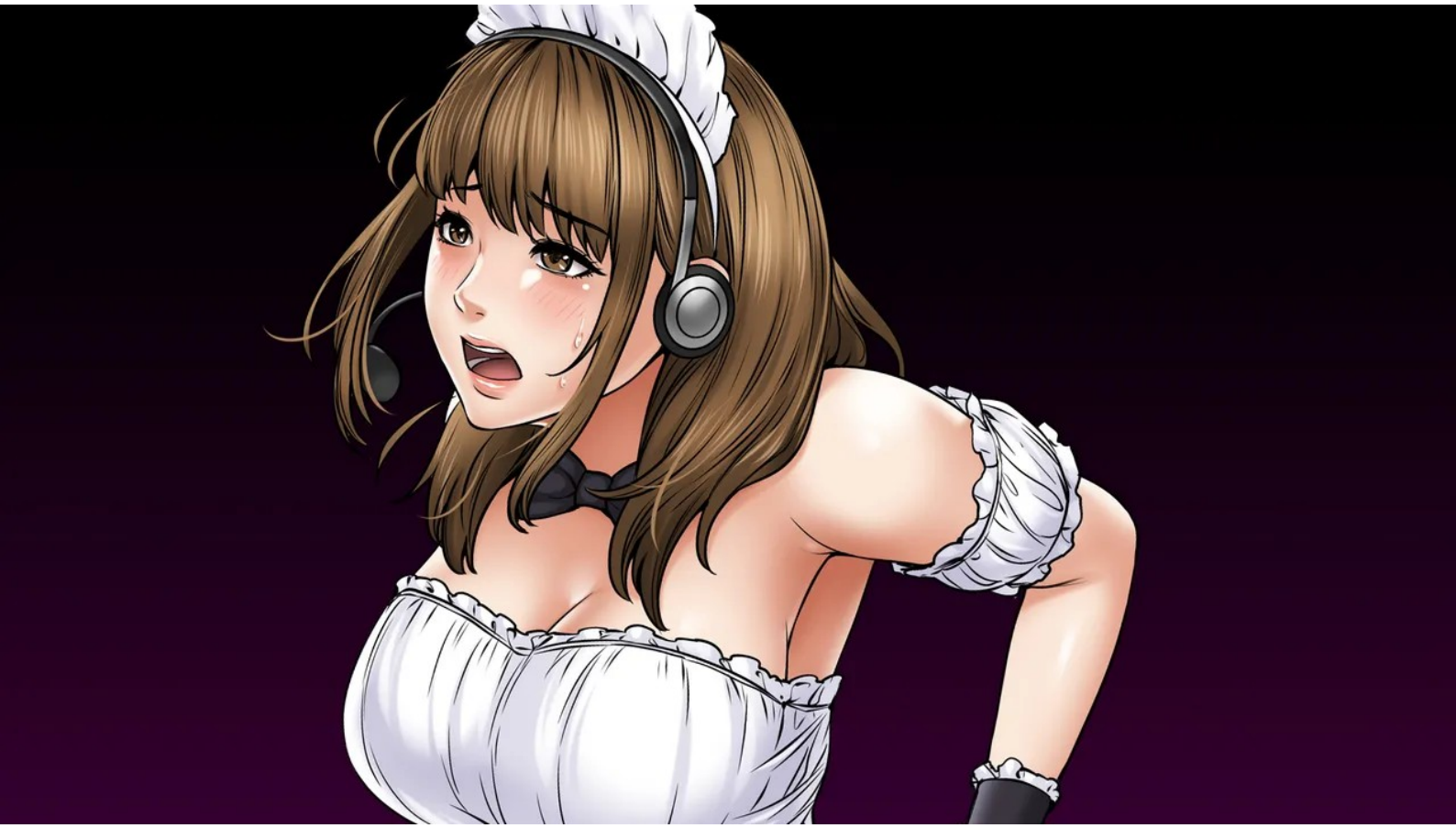
マルチ　3人チャット中　21人のぞき中

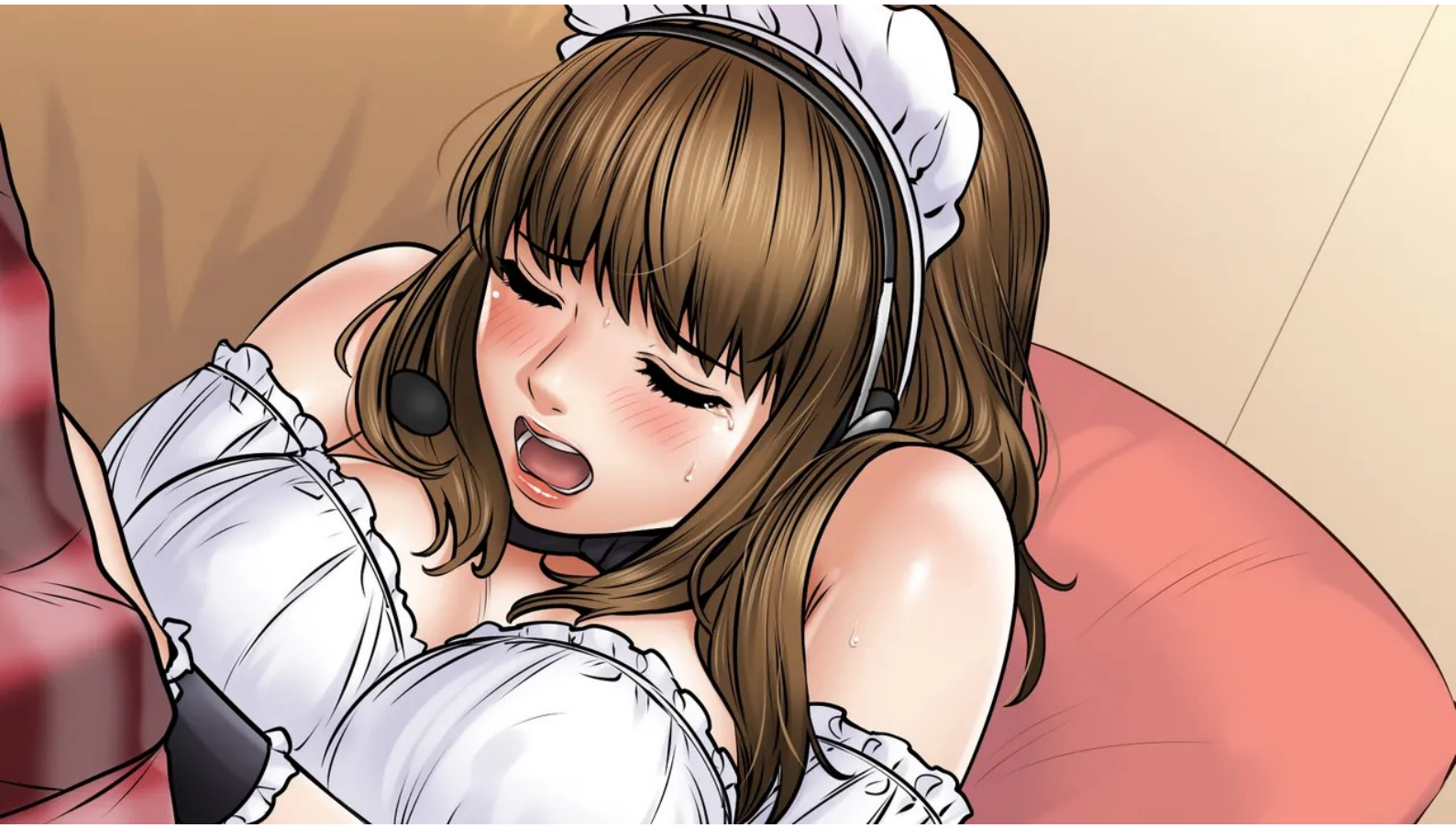


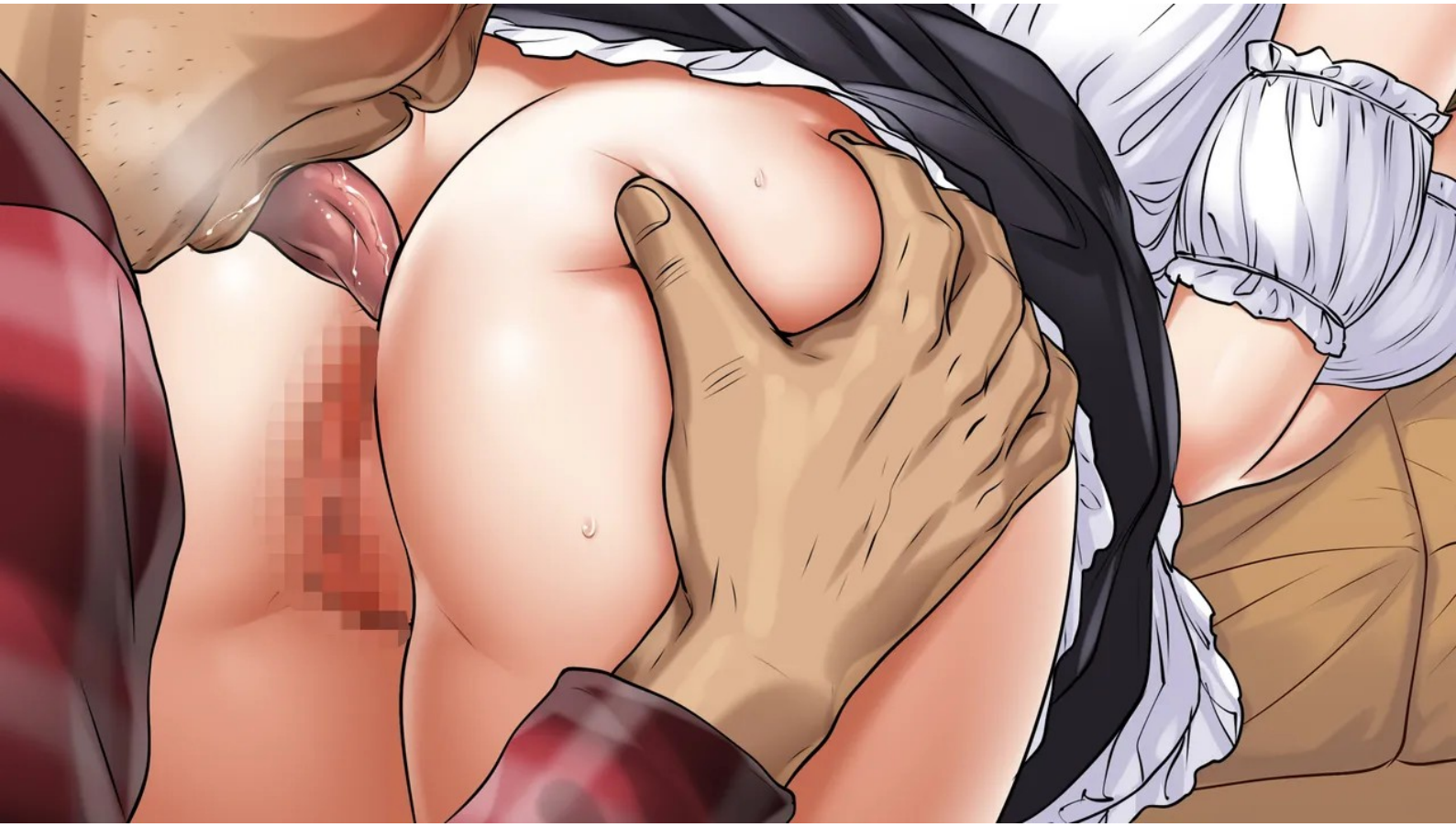
朱里：脱ぐのもいいですけど
朱里の恥ずかしいところ
見てくれませんか？
鉄人45号：見たい！
今日はその衣装でしてくれるの？
充　：いつでも準備できてるよ
ピエトロ　：見せてみろ
朱里：それじゃあ恥ずかしいけど
5000コインいただいたら
見せちゃおうかな
充さんが5000コイン送りました。
鉄人45号さんが5000コイン送りました。
ピエトロさんがこのルームを退出しました。
朱里：充さん、鉄人45号さんありがとう～
朱里：二人とも大好きです！
朱里：ピエトロさんどうしちゃったのかな？
鉄人45号：朱里ちゃん早く見せて
充　：準備は万全だよ
朱里：それじゃあはじめるね！
朱里：今からちょっとチャットは
できなくなるけど…
朱里：朱里の恥ずかしいところ見てください

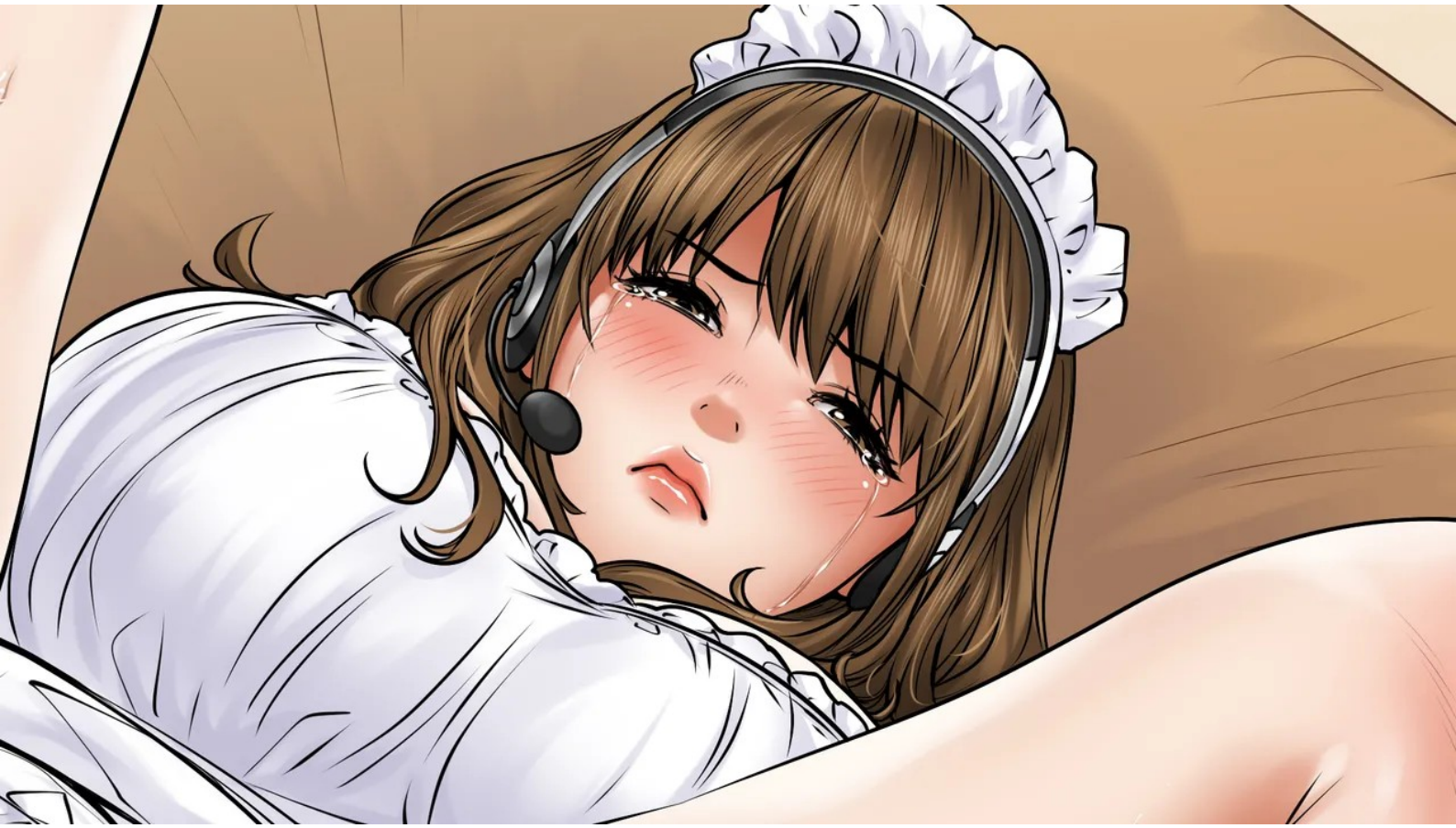


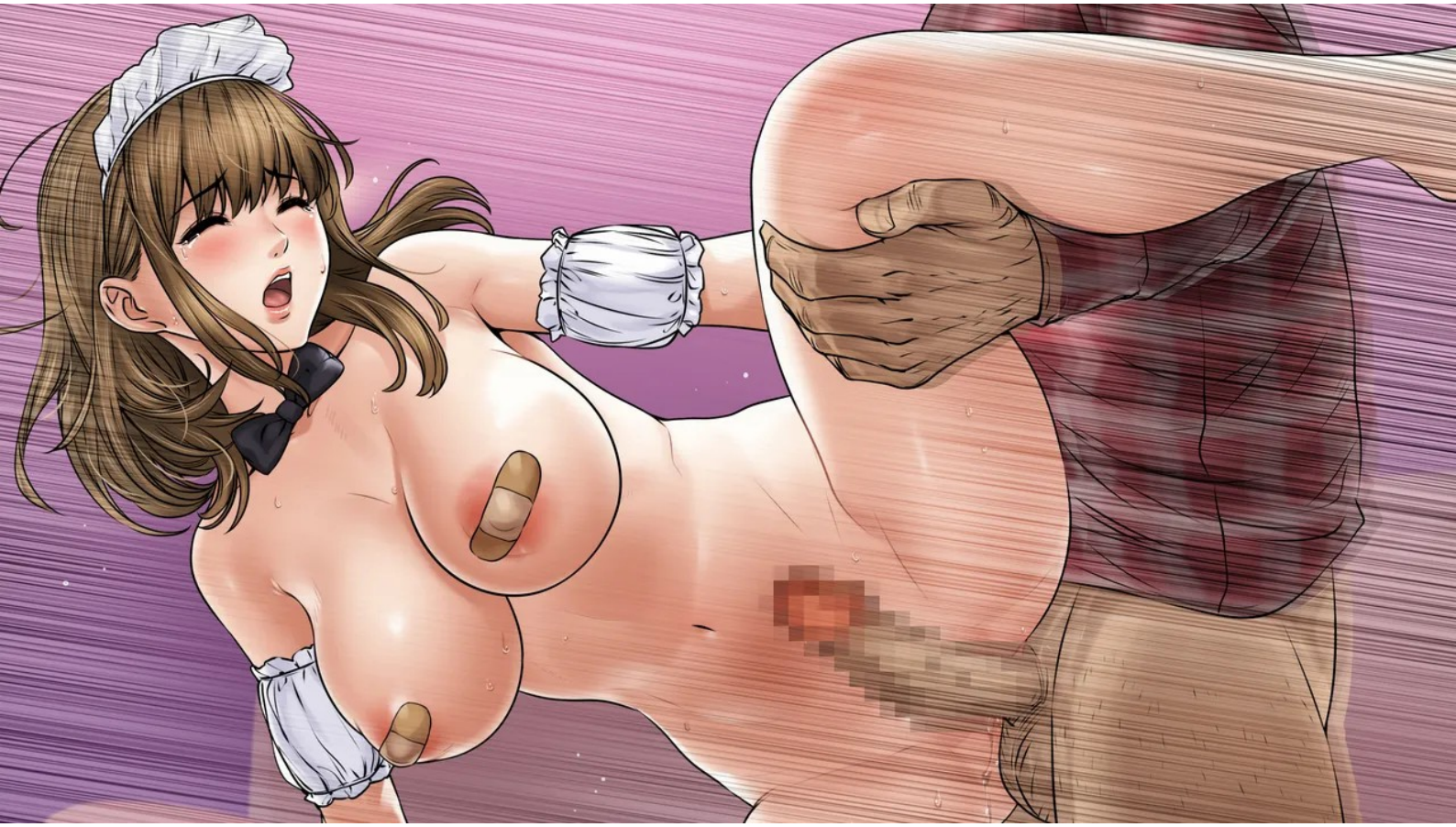


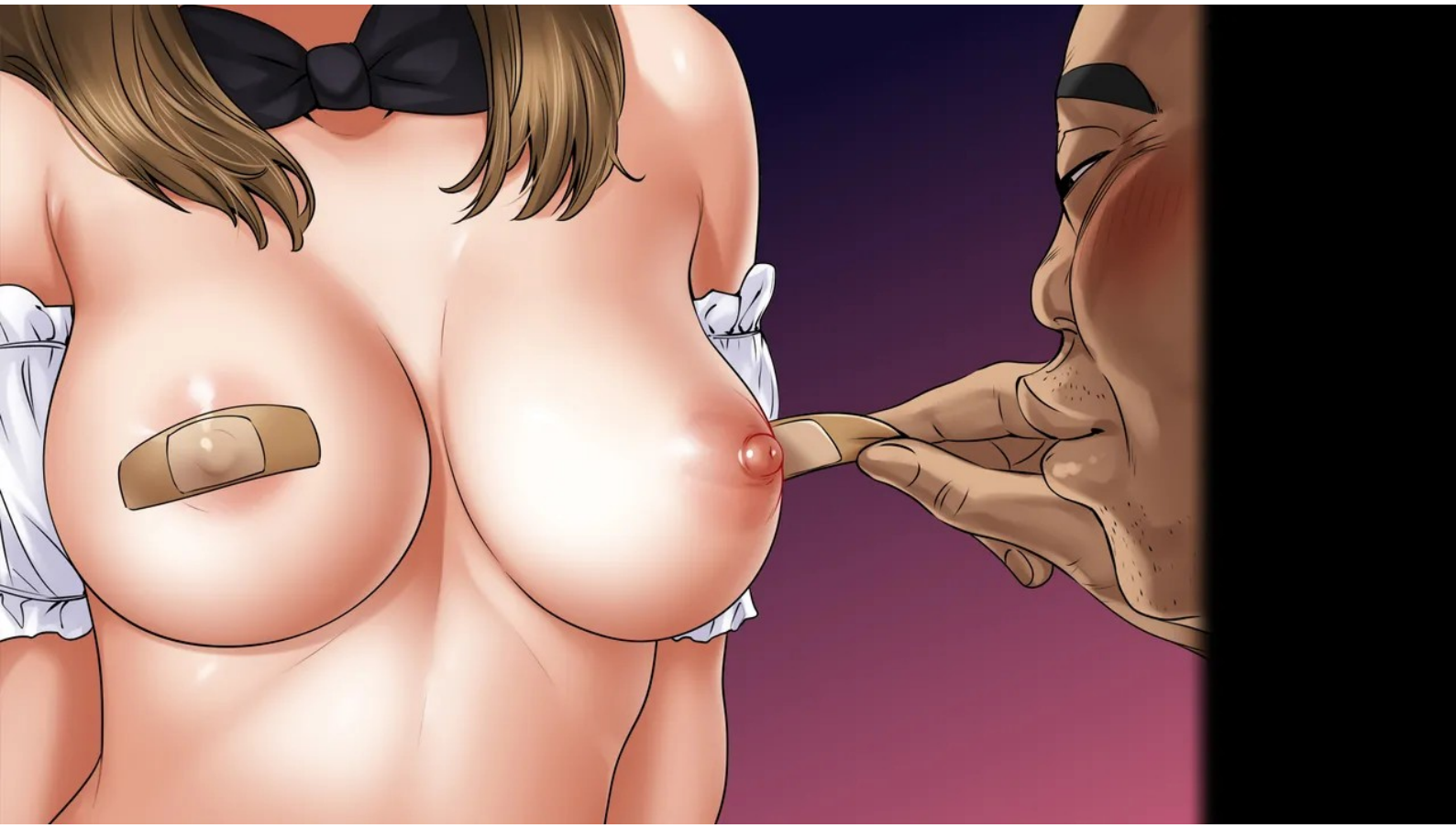


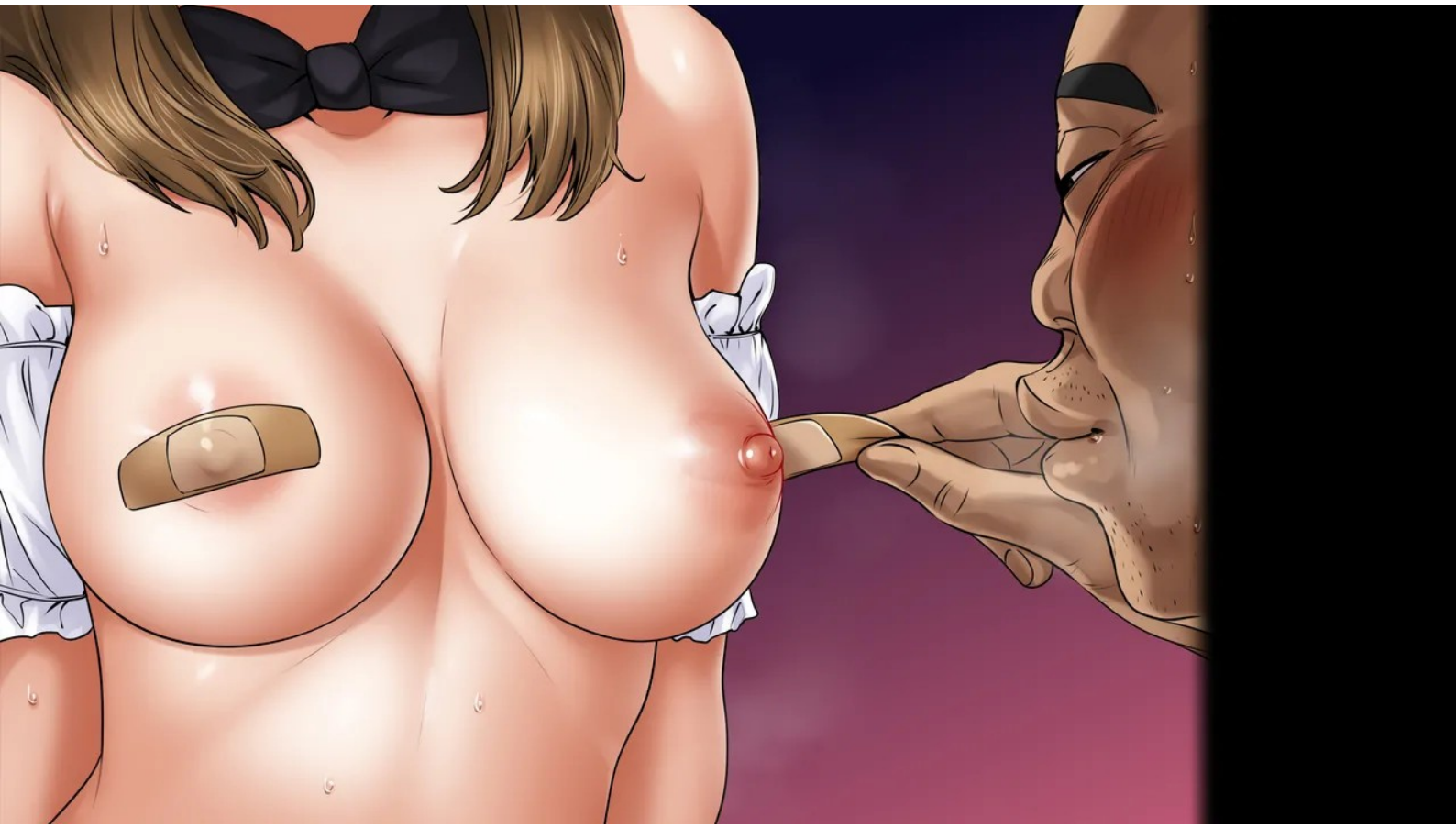


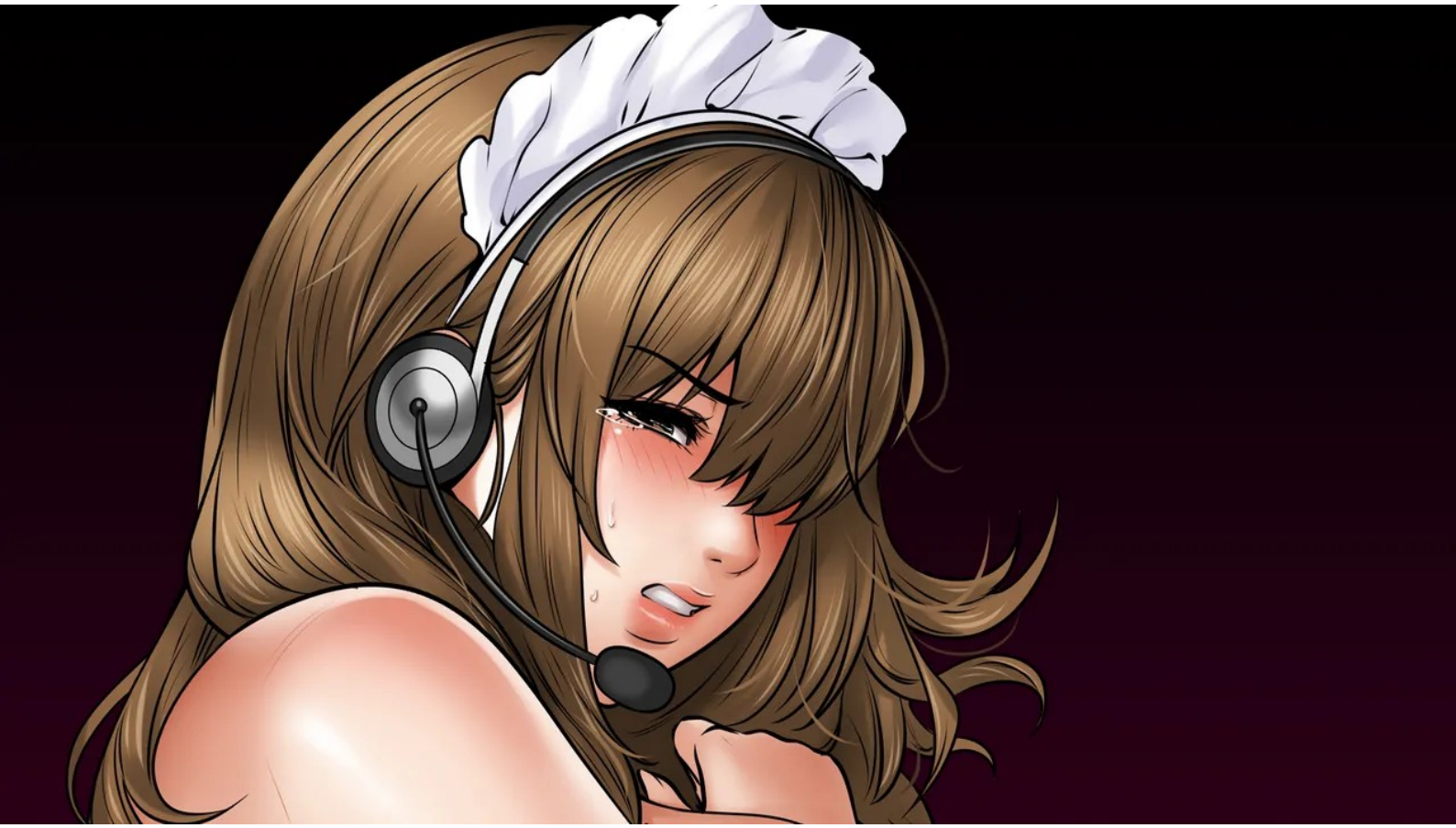


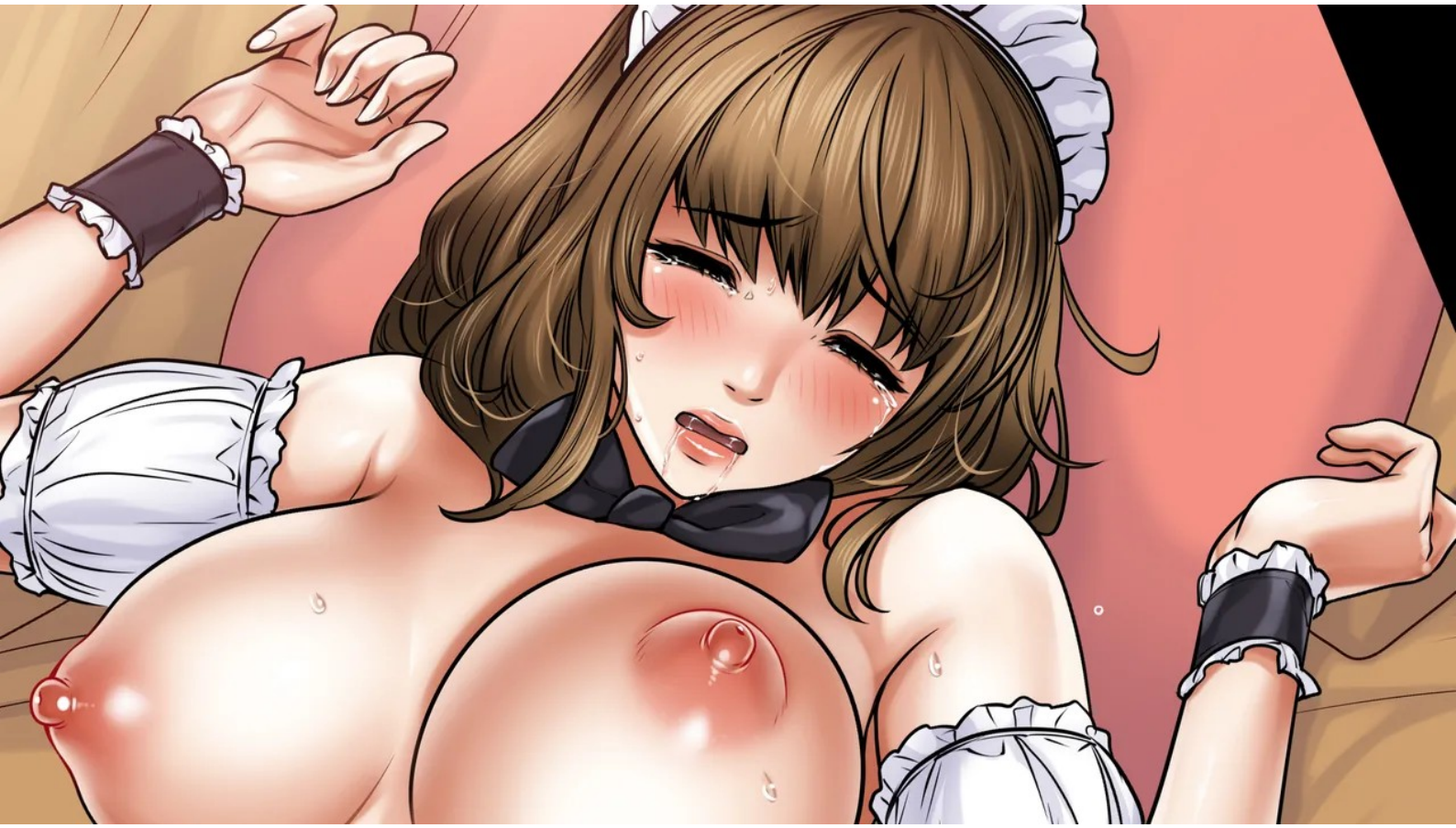




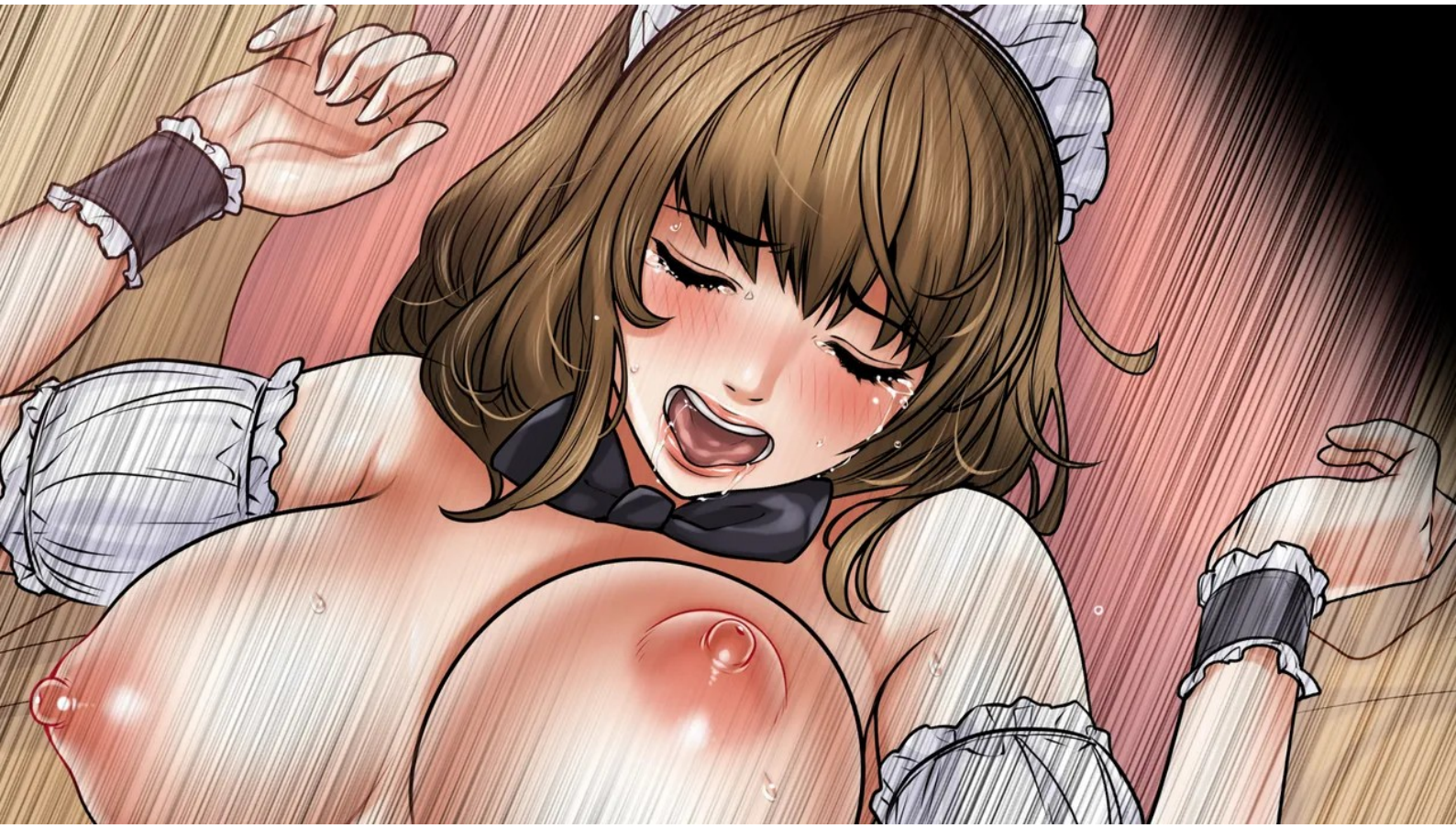


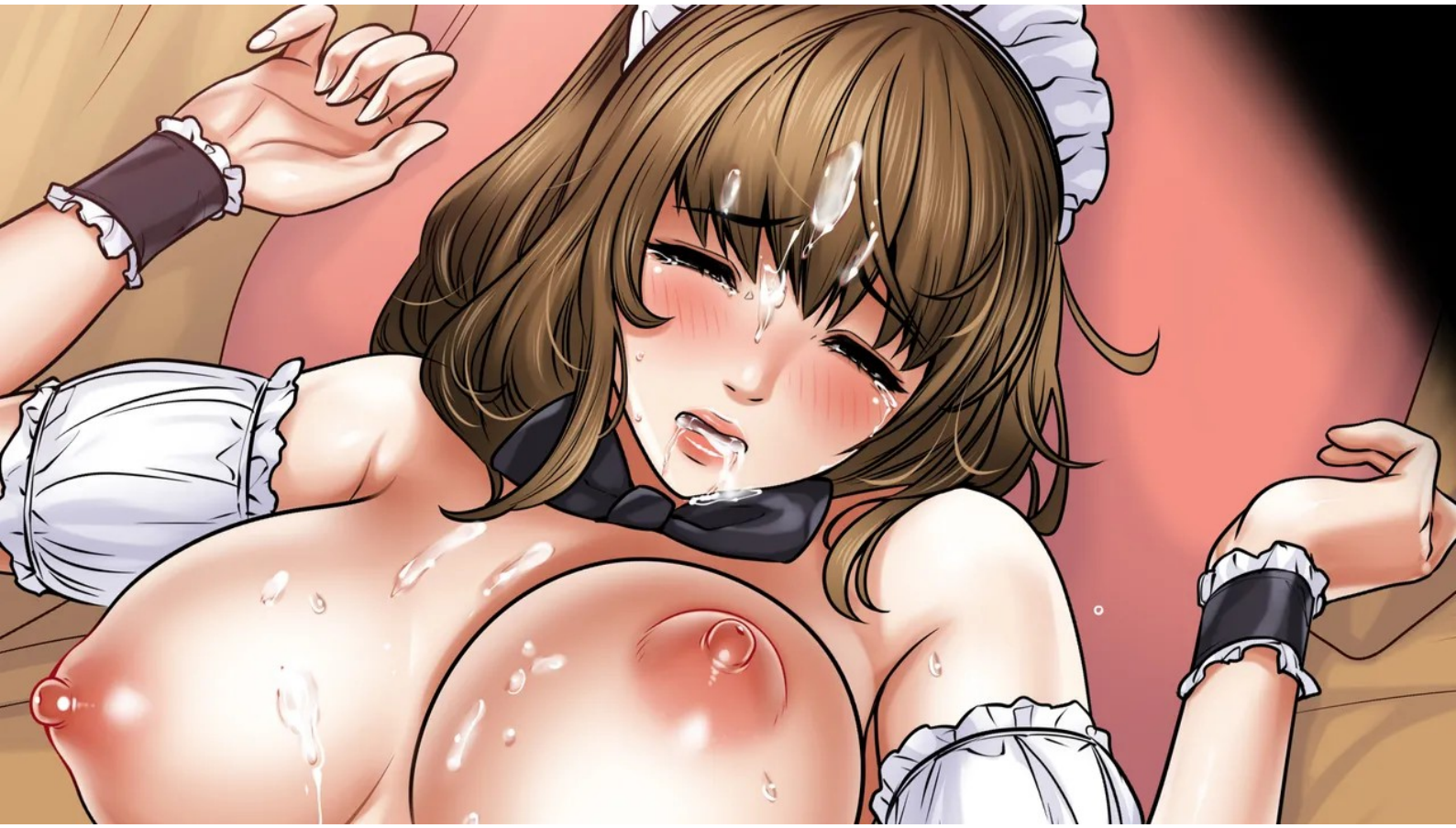






イきたいイきたい



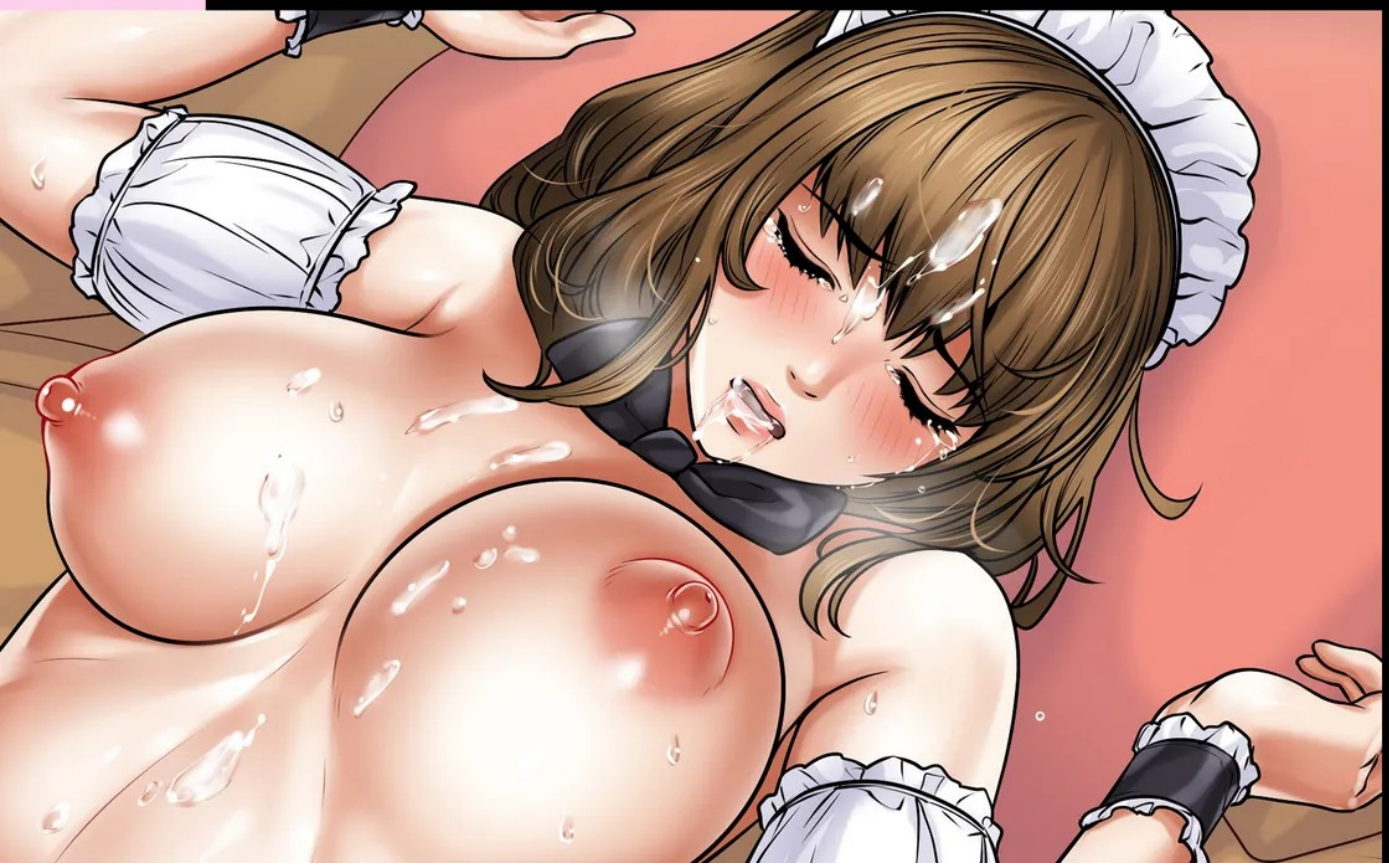


マルチ　37人チャット中　286人のぞき中

鉄人45号：誰だ？この男？
ピン介　：朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ　：これ運営的に大丈夫なのかな？
KinKin：なんだこれ？
鉄人45号：朱里ちゃん大丈夫なの？
ぶっさん　：もっとおっぱい責めろ！
部屋と私　：女の子エロ過ぎでしょう
You　：これってレイプだろ？
学徒の拳　：投げ銭なしでここまでやってくれるのか？
黒りんご　：めちゃめちゃ抜ける
下郎マン　：絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカ里　：男精子ですぎだろ
宗男　：お 男気が付いたぞ
寺さん　：男ちんこ隠せよな
ボブ　：これから3Pとかあるかな？

マルチ　37人チャット中　286人のぞき中

鉄人45号：誰だ？この男？
ピン介　：朱里ちゃん尻エロすぎ
カゲロウ　：これ運営的に大丈夫なのかな？
KinKin：なんだこれ？
鉄人45号：朱里ちゃん大丈夫なの？
ぶっさん　：もっとおっぱい責めろ！
部屋と私　：女の子エロ過ぎでしょう
You　：これってレイプだろ？
学徒の拳　：投げ銭なしでここまでやってくれるのか？
黒りんご　：めちゃめちゃ抜ける
下郎マン　：絆創膏はつけたままがよかったけどな
イカ里　：男精子ですぎだろ
宗男　：お 男気が付いたぞ
寺さん　：男ちんこ隠せよな
ボブ　：これから3Pとかあるかな？

マルチ

37人チャット中　306人のぞき中